

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 東北支部

JCCA TOHOKU

明日への風、
東北から



vol. **52**
支部だより 2015.10

目 次

Vol.52

- 巻頭言 「災害大国」→「レジリエンス」コンサルタントは？
…………… 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部 副支部長 江藤 和昭 1
- 特別特集
「第3回国連防災世界会議」in仙台について
…………… 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部 支部長 遠藤 敏雄 2
「第3回国連世界防災会議～国内外への防災対策の発信～」
…………… 株式会社千代田コンサルタント 小金澤 実 4
- 海外紀行
「平成27年度 WAVE・JCCA 欧州インフラ事情調査」
…………… 株式会社復建技術コンサルタント 佐藤 義嗣 7
- 女性技術者が思う建設コンサルタント
「若手女性技術者の1年目」…………… 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 小林 桂子 13
- 名勝地・行事
「青森のねぶた・ねぶた・立佞武多」…………… 株式会社コンテック東日本 工藤 浩一 14
- 土木施設紹介
「羽州街道榎下宿に現存する石橋」
…………… 対外活動部会 広報委員会委員 株式会社社長 荒木 孝広 16
- 会員の紹介
「これからが正念場」…………… 株式会社トーニチコンサルタント 勅使 力 17
- 支部活動報告
「平成27年度支部定時総会」…………… 18
「平成27年度「建設コンサルタントの要望と提案」意見交換会」…………… 19
「9月1日「災害時対応演習」を実施」…………… 20
- 委員会紹介
「地盤専門委員会の紹介」
…………… 技術部会 地盤専門委員会 委員長 応用地質株式会社 菖蒲 幸男 21
- 特集
「EE東北'15」…………… 22
「平成27年度 東北支部会員 東北地方整備局優良業務表彰について」…………… 25
- 支部だより…………… 30
- 会員の動向…………… 34
- 講演会のお知らせ…………… 35
- 東北支部 会員名簿…………… 36
- 編集後記…………… 広報委員 目々澤英幸 38



「災害大国」→「レジリエンス」コンサルタントは？

一般社団法人建設コンサルタント協会 東北支部 副支部長 江藤 和昭

1. 災害大国日本

我が国は災害の種類、頻度とも多い。地震、台風、高潮、竜巻に加え、最近では火山噴火も各地で発生している。日本に災害の発生しないところは無いと言えよう。いつ、その被害が自分に降りかかっても仕方ないと覚悟しておくべき国にいるのだとも考えてしまう。10年以上前、在日の海外女性に、「日本はボルネオの国です。」と紹介していたのを思い出す。

我々は東日本大震災により世界に類をみない災害を経験した。原発問題もあり、災害への恐怖、災害に対する備え、復興への想い、街づくりの在り方などでさまざまな感情や批評、意見が交錯する中、建設、土木業界が復興を支えてきたと言っても過言ではないだろう。まだ被災地における復興への道のりには時間が掛かるが、さらなる加速化により、住みやすい街が一日でも早くできるのを願うばかりである。

東日本大震災を直に経験し、強靱化（レジリエンス）の重要性を認識したコンサルタントとして、レジリエンスとは何か、私なりの考えについて述べる。

2. 災害対策基本法～国土強靱化基本法

我が国の災害対策は、1959年の伊勢湾台風を契機に制定された災害対策基本法が原点である。また、東日本大震災後、2013年国土強靱化基本法が成立し、①人命保護、②国・社会の機能維持、③財産・公共施設の被害最小化、④迅速な復旧・復興の4つの基本目標を設定している。

国土強靱化の基本計画では、45の起こってはならない事態を整理し、12の施策分野とのマトリックスで脆弱性評価を行い、不足する施策を検討し、5年間の基本計画、アクションプランを策定した。また、この計画は、自治体の定める防災計画や地域形成計画を包含している。このアクションプランを毎年見直し、PDCAで推進することにより、「強さ」と「しなやかさ」を確立・維持しようとするところに特徴がある。

3. 何が重要なのか？

(1) ハードとソフトの両面

防災・減災に対してオールジャパンで取り組まれ、設計や基盤づくりなどハード面の取組は着実に進んでいるが、ソフト面の進捗が鈍いと思える。やはり、地域ごとに被害状況をシミュレーションし、BCPなどの計画策定・更新、住民や従業員の避難訓練を繰り返すなど、できることを普段から積み重ねて行動しておくことが重要であると考えられる。

(2) 共通の仕組み、キーワード

広域に及ぶ災害が発生した際、自衛隊や国土交通省など、全国にまたがる組織は、その組織に共通した仕組みとキーワードで比較的スムーズに物事が進められる。し

かし、自治体は判断のタイミングや基準がそれぞれ異なるため、組織間の連携が円滑に行えないばかりか、その影響が地域住民の被害に繋がることもある。例えば、台風による河川の増水時に避難勧告のタイミングを誤るなどである。ましてや住民には災害時の共通の仕組みやキーワードが存在しない。地域によって、過疎化、高齢化、逆に人口密集エリアもあり、一概には決めかねるだろうが、「釜石の奇跡」にあるように小中学校も含め、全国もしくは地域単位で共通の仕組みやキーワードの標準化やその定着が必要であろう。

4. 強靱化（レジリエンス）をどう捉えるか？

住民、いや国民の多くは、自分の関わる社会環境、つまり、家族、職場、居住地域、さらに国土全体が、強靱であって欲しいと願っているだろう。

コンサルタントはその国土作りの一翼を担っていることは事実であり、コンサルタント自身もその役割を全うしてこそ、社会貢献していると個々に自負できるのである。私たちコンサルタントは社会環境づくりの担い手の一人として、計画、調査、設計のみならず、生活やコミュニティ、暮らしにおける仕組みなども含めて提言できる立場にあると私は考える。

冒頭に自然災害を挙げ、ここまで話を進めたが、レジリエンスの基本は社会環境づくりにおけるベースの部分に言及しているもので、エネルギーや食糧、物資、雇用、通貨なども含まれる。強靱化を実践し地域を強くするには、地産地消で独立した生活を可能とするなど地域づくりそのものを変えていく時代になったと捉えて、我々もコンサルタント業を通じて社会を変えていくための提言を行うことが必要であると言えよう。

5. 最後に

コンサルタント業界自体にもレジリエンスが重要だと考える。コンサルタント業界が強くてしなやかであるとはどういうことか。決して耐性のある人間が生き残ることを強調される組織ではなく、多様な価値観や社会観を持ち合わせた組織、業界であるべきと考える。確固たる技術（品質・高度な技術）を持つだけでなく、付加価値を生み出すさまざまな個性が存在し、未来にわたってアイデアを出し、持続的に成長できる組織であってこそ、将来性の高い業界だと言えるのではないだろうか。

付加価値を生み出せるコンサルタント業界とするために業界全体で、以下の必要な施策をPDCAで推進することが肝要だと考えている。

- ①多様な人材の活用（若手の育成、女性・シニアの活用）
- ②コンサルタントとしての業容拡大
- ③コンサルタントの社会的地位向上

(以上)

「第3回国連防災世界会議」 in 仙台について

東北支部長 遠藤 敏雄

・はじめに

第3回国連防災世界会議が仙台国際センターをメイン会場に2015.3.14～18の5日間で行われました。本体会議には、187カ国の代表、国際機関代表、NGO、メディア等6,500名以上が参加し、我が国で開催された国連関係の国際会議で最大級のものになりました。また、各省庁、大学、NGO、学会や協会などが主催したパブリック・フォーラムには国内や諸外国から述べ156,000人の参加の下、市内の11会場でシンポジウムやセミナーが開催され、室内・屋外展示場では「世界の防災展」、「東北防災・復興パビリオン」など多くの市民も迎えて盛大に実施されました。

当協会は、宮城県及び東北大学と共催したパブリック・フォーラム「東日本大震災からの多重防御によるまちづくり」は、TKP ガーデンシティ仙台（AER21階 3/16 14:30～）で開催され、会場は満員となる250名の参加者とともに議論ができました。改めて、多くの参画者に感謝を申し上げます。

また、会員各位は土木学会や技術士会等の学会、大学や各種協会や団体を通じて、多種多様な分野で参画しており、改めて会員の国連防災世界会議への関心の高さに敬意を称するものでございます。

・仙台市開催の意義

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議であり、第1回（1994年、於：横浜）、第2回（2005年、於：神戸）の会議とも、日本で開催されています。第2回会議では、2005年から2015年までの国際的な防災の取組指針である「兵庫行動枠組」が策定されるなど、大きな成果をあげています。今回の第3回国連防災世界会議では、兵庫行動枠組の後継となる新しい国際的防災指針を策定するものであります。

奥山恵美子仙台市長が防災世界会議の誘致を表明したのは、2011年3月11日 東日本大震災（Mw9.0）からわずか2カ月後のこと。世界中の方に被災地の現場を直接見て頂きたい、そして仙台市民が経験したことをしっかりと伝えていかなければならないという考えから、誘致を決めたと聞いております。震災復旧、初動時の混乱中での決断は、相当の決意の基で行なわれ

たと思われます。誰も経験の無い大規模で特異な大震災から、果たして4年間で満足な復旧・復興を世界に伝えることが可能になるか、予測困難であったと思われます。市長の誘致への決断に敬意と感謝を申し上げます。

国連防災世界会議は、国連の主権により、今後の10年間の世界の防災戦略を方向付ける大変重要な会議であります。世界各国で起こっている災害を踏まえ、被災地の東北にとっては、復興促進への後押しをし、世界に強くアピールする上で、またとない機会になったと思われます。

仙台での会議開催は、Mw9.0の大地震と大津波に遭った唯一の百万都市である仙台市に課せられた重要な責務と云えます。しかも、宮城県沖地震（1978.6.12 M7.4）、宮城県北部地震（2003.7.26 M6.4）、岩手宮城内陸地震（2008.6.14 M7.2）と多くの巨大地震を経験し、着実に耐震化を進めてきた代表的な都市です。3.11では被災3県の中でも宮城県が最も犠牲者も被災額も多く、その政治的経済的中心をなす仙台市の役割は計り知れません。このような中で、尊い犠牲を払った震災から学んだ経験と教訓を広く伝え、後世へ継承し、世界の防災文化や技術の発展に寄与することに、仙台開催の大きな意義があったと思います。

・会議の実績

第3回国連防災世界会議は5日間の全日程を終了し、無事閉幕しました。本体会議では「仙台防災枠組（Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030）」と「仙台宣言（Sendai Declaration）」が採択されました。

防災の新しい国際的指針の中に、防災投資の重要性、多様なステークホルダーの関与、「より良い復興（Build Back Better）」など日本から提案した考え方が取り入れられました。また、本年9月に採択される予定の「ポスト2015年開発アジェンダ」に防災の視点を盛り込むことの必要性が確認されました。

パブリック・フォーラムは5日間で398件が開催されました。取り上げられた案件を分類し集計した結果を（上位5位まで）表1に示しております。これによると復旧・復興に関する方策や今後の課題、震災の伝

承や教育・訓練、指導・管理に関するものが多く取り上げられ各々17%、コミュニケーションの必要性や自助・共助・公助の在り方10%と3.11の震災の特徴が示されています。医療や介護、メンタルヘルスを含めて関心が高いのが伺われます。情報・通信は、震災直後から救助・救援、被災地の各情報に関するもの、今後のあるべき情報・通信技術などが多く見られました。

表1 フォーラムの分類と数

フォーラム内容	件数	構成率
復旧・復興対策	66	17%
防災教育、管理	66	17%
コミュニケーション、自助・共助・公助	41	10%
メンタルヘルス・医療	28	7%
情報・通信	26	7%

ただし、この分類や内容については、パブリック・フォーラム一覧から整理したもので細目の内容まで深掘をしなかったため、場合によっては不具合もあることをご容赦願います。

・今後の課題

パブリック・フォーラムの案件整理から、件数が多いものは重要性や課題も多いと感じました。また、3.11に関する学術講演会や発表会などでも、同様な分類が可能なのがありました。

筆者がフォーラムや講演会などに参加して感じた、今後の課題や取り組みについて私見を以下に述べます。

多くの巨大地震を経験し、着実に進めてきた橋梁やビルなどのインフラの耐震化や水道管、ガス管などのライフラインの耐震化は、極めて効果的であり十分に耐震性能が認められました。一方、経験が無い津波は、その破壊力が極めて強く、防波堤、岸壁などは全く新しい設計思想や構造細目を取り入れたため、今後検証が必要になる。また、津波被害を受けた構造物の塩分浸透が耐久性に影響を与えるため、十分な維持管理が必要となる。

復興事業は、復興の先を見据えて人口減少社会を前提に、持続発展可能なまちづくりとすることを基本に展開されている。持続的発展可能なまちづくりの基本となるコンパクトシティーによる機能の集中や地域間連携に必要な交通網整備、ICTの活用や防災・減災、農地・森林の保全と多面的機能を発揮できる国土づくりのため、被災地の復興の実績を評価するとともに、全国の国土形成に広く展開が必要と思われる。

東日本大震災は、被害地そのものが広域で、かつ、直接的な被害も甚大であったが、それに加え、電力供給やサプライチェーンを通じてより広域的に被害をもたらした。また、地震、津波に加え原子力災害が発生し複合被害となった。このため、我が国の経済社会に大

きな影響を与え、居住地の安全性に対する意識のみならずエネルギー供給や物流、その他の幅広い経済社会システムにおける危機管理への意識が高まるきっかけとなった。企業におけるBCPの作成、ミッシングリンクの解消やリダンダンシーなど課題は計画的に早期に解決すべきである。

さらに、これらの災害の経験を経て、大規模災害時における対応には、公助のみならず自助・共助が必要不可欠であるとともに、被害ボランティア等災害関係活動への国民の参加意欲が増大しており、多数の参加者が組織的、効率的に活動できるような運営方法についての知見も蓄積されており、全国的な教宣活動が必要と思われる。

他方、災害時に適切な非難行動が成されないことや、災害リスクが高い地域に人が住み続けるなどの状況が依然として存在しており、災害リスクに対する認識を向上させて行く努力を継続することが必要である。

東日本大震災では、行政自体の被災による行政機能の麻痺などにより公助の限界が明らかとなり、住民等の自助、共助による防災活動の重要性が強く認識された。また、低頻度で発生する大規模災害時におこる事案のすべてに行政が対応すべく、平常時から人員等を確保しておくことは困難であることから、大規模災害時においても適切な自助、共助が行なわれるよう国民の防災活動への意識向上を図るための啓発活動を推進することともに、行政が予め対策を講じておく必要がある。

・おわりに

東北地方整備局は3.11で「備えていたことしか、役にはたたなかった。備えていただけでは、十分でなかった」と分析している。これまでの経験を基に蓄積された初動体制から復旧期までに至る数多くの備えの実証と、備えの限界を知った。その上で、備えの重要性を指摘している。特に、教育・訓練、マネジメントに関する備えは、被災地の犠牲者の数で明白になった。教育機関をはじめ地域のコミュニケーションの重要性が改めて問い質された。

国土形成計画（全国計画）が8月14日に閣議決定されました。その計画には東日本大震災を経験して得た多くの課題やその解決策が国土形成計画に盛り込まれております。今後、各地域ブロックで広域地方国土形成計画を立案し具体化が検討されることから、私達は計画策定に積極的に参画し、頻繁に起こる自然災害に対する防災・減災そして国土の強靱化を果すこと、国民の安全安心を確保することで、3.11犠牲者に報いるとともに、世界各国の防災・減災に寄与することで各国からの御支援に対するお返しとしたい。

以上

第3回国連世界防災世界会議 ～国内外への防災対策の発信～

株式会社千代田コンサルタント 小金澤 実

1. はじめに

平成27年3月14日～18日まで仙台市で開催された第3回国連防災世界会議に参加して、『東日本大震災からの復興まちづくりと今後の防災対策』を基本テーマに、以下に紹介する4つのテーマに絞り国内外に情報発信した。

- (1) 総合防災マネジメントに向けた取り組み
- (2) 南相馬市の防災集団移転促進事業の概要
- (3) 大規模盛土滑动崩落対策及び液状化対策
- (4) 護岸と抑止杭による海岸道路の拡幅事業

ここでは、被災都市の中で最も早く防災集団移転促進事業が完了する南相馬市の事例紹介や、液状化対策、大規模盛土崩壊対策等の震災復興への取り組み状況、日常的な海岸部における非越波型波返し護岸、震災を教訓とした今後の防災対策等のあり方として、『総合防災マネジメント』について概要を報告する。

2. 総合防災マネジメントに向けた取り組み

近年の大規模災害を見ると『阪神・淡路大震災』から今年でちょうど20年に当たる。その間、2011年3月の東日本大震災をはじめ、最近では記憶に新しい広島土砂災害（2014年8月）、御嶽山の火山災害（2014年9月）、長野県神城断層地震（2014年11月）が発生するなど、『地球温暖化や、我が国が火山の活動期に入った』と言われている。近年多発する我が国の自然災害は、全国のいたるところで発生しており、まさに、いつ・どこで発生するか、予測が立てにくい状況にある。

このため、防災対策の必要性から、総合防災の概念を整理すると図-1の通りである。

左半分が事前防災の取り組みで、右半分は、発生しないことを願うのですが、災害が発生した場合、速やかに市民生活や経済活動を元に戻していくための復旧・復興の取り組みである。

事前防災としては、計画的なソフト・ハード対策が重要であり、日常的な防災意識の醸成と、段階的な防災への取組み強化による防災・減災対策が必要である。

また、右半分の復旧・復興については、災害等が発生した時の事後対応として、これまでの教訓を活かした

速やかな復旧・復興対策や、BCP（事業継続計画）の実施が不可欠である。



図-1 総合防災の概念

これらの取り組みを整理すると以下の通りである。

- ①『いつ・どこで発生するかわからない』自然災害への備えとして、地域の防災上の問題・課題を明らかにし、計画的かつ段階的な備えが必要
- ②事前防災としては、即効性のあるソフト対策と、着実に整備できるハード対策が重要であり、日常的な防災意識の醸成と、段階的な防災対策の強化が不可欠
- ③災害が発生した時の『事後対応』として、速やかな『復旧・復興対策』や『BCP』の実施が不可欠であり、速やかに復旧に向けた被害状況の把握・分析が必要
- ④『防災・減災対策』を着実に進めていくためには、情報共有や推進体制など『防災事業の一元管理』による総合防災マネジメントの取り組みが重要

3. 南相馬市の震災復興における防災集団移転促進事業の概要

(1) 事業の概要

東日本大震災による被災者の住宅再建を目的に、復興事業として『防災集団移転促進事業』を南相馬市で実施したものである。当該事業は「移転促

進区域」を設定し、「5戸以上」かつ「移転住戸の半数以上」の住宅が集团的に建設できる規模の住宅団地を整備する事業である。



図-2 制度の仕組み・システム

(2) 事業上の課題と対応策

事業を進めるにあたっては、①集団移転へ合意形成、②移転先団地の用地取得、③移転先団地計画の合意形成が課題となった。

- ①では、個別の住宅再建の方向性の判断を支援する「再建パターン」等のわかりやすい資料による説明会を開催
- ②では、入手可能性の高い候補地情報や、候補地の複数化、広めの区域設定など地主への丁寧な説明を実施
- ③では、移転者参加型のワークショップを適宜開催し、団地計画への意見反映



(3) 事業の特徴

- ①事業地区（市全体）を1地区とし、市内のどの候補団地への移転も可能
- ②災害公営住宅と防災集団移転団地の明確な棲み分け
- ③元の集落の近隣に、周辺集落へ融合させた形でコンパクトな団地を数多く分布配置
- ④希望宅地規模等の事前ヒアリングによりフル・オーダーメイド型区画の提供
- ⑤段階に応じたワークショップの開催により、住民自らの協議と意思決定を实践
- ⑥仮契約仮渡し制度を導入し、工事完了・確定測量完了後すぐに建築行為が可能

(4) 事業の進捗状況と今後の課題

平成27年7月現在、住宅団地全21地区すべて造成工事が完了し、宅地分譲契約は全304区画中276区画（90.8%）である。その内241戸（87.3%）が完成入居または建築中である。また、特筆すべきことは、空き区画が0となり、防災集団移転促進事業としては効率よく、かつ最も早く整備が進んだ都市となった。

今後の課題は、関連する施設等の二次的整備への対応、移転元の土地買収の長期化などが挙げられる。

4. 東日本大震災における大規模盛土滑動崩落対策及び液状化対策

(1) 大規模盛土滑動崩落対策

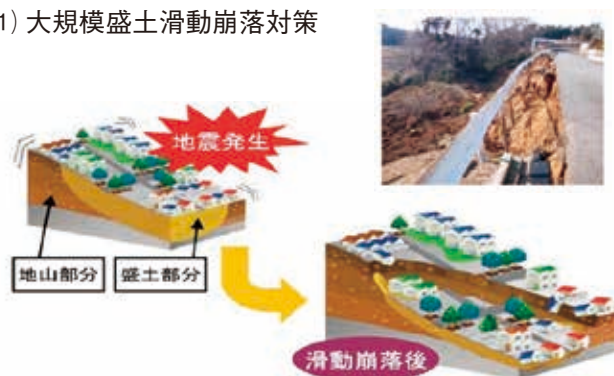


図-3 大規模盛土滑動崩落対策

大規模盛土滑動崩による住宅地の被害件数は、全体で5,467件と非常に多く、このうち、既に施工完了している岩手県一関市の腹付盛土の対策と、現在対策中である茨城県東海村南台地区の谷埋盛土の地下水位低下への抑制工法と、抑止杭やアンカー工法の抑止対策、及び谷部の液状化対策について実施した。なお、岩手県一関市における滑動崩落対策は、東日本大震災後、全国で最も早く大規模盛土崩落対策事業を行った実績である。

(2) 公共施設と宅地の一体的な液状化対策

液状化による住宅地の被害件数は、全体で26,914件と非常に多く、人的被害は少なかったが千葉県浦安市・千葉市や茨城県潮来市・神栖市・鹿嶋市では、広範囲にわたり被害が発生し、資産価値にも大きな影響が出ている。

これらへの対策として我が社では、国土交通省発注の「液状化対策ガイドライン」を作成した。液状化対策としては、千葉県浦安市で進めている格子状改良工法と茨城県潮来市・神栖市・鹿嶋市や千葉県千葉市で進めている地下水位低下工法の

2つがある。

このうち地下水位低下工法は、道路下に碎石層の中に暗渠管を設置して地下水位を排水して地表面からの液状化対象層を約3m以上確保するものであり、周辺に矢板囲い込みがある場合と無い場合、排水流末処理が自然流下によるものと流末ポンプアップ方式がある。これまで各地区では、実際の地盤での実証実験を行い、地下水位低下や地盤沈下による家屋への影響効果の検証結果、有効である箇所とない箇所があることが明確となった。



図-4 液状化対策工法（地下水位低下工法）

5. 護岸と抑止杭による海岸道路の拡幅事業

(1) 事業の概要

一般国道10号別大道路2.1kmの4車線から6車線+歩道、海側へ17.75mの拡幅工事である。拡幅事業は昭和51年に都市計画決定され、その後、道路ルート計画・護岸計画・地質調査・杭の原位置載荷試験・水理実験等を繰り返し、大規模地震に対応した地すべり抑止杭と非越波型波返し護岸として平成24年2月に全線開通した。



図-5 護岸と抑止杭による海岸道路の拡幅事業

(2) 課題と解決策

別府市と大分市を結ぶ重要な幹線道路で、かつ台風の常襲地帯のため越波による「特殊通行規制区間」に指定されている。さらに、南海トラフ・内陸活断層を発生源とする地震が起きている。代替道路がなく、事故や越波・地すべり・大規模地震等による災害が発生して通行止めになると社会的影響が多大となることから、幹線道路としての

機能向上が緊急の課題であった。

本構造は地すべり抑止杭と波返し護岸とこれを支持する杭基礎とが一体となった前例のない構造である。また、耐久性や波浪および大規模地震時に求められる道路の要求性能に対して、耐用年数を100年として波浪や地震の再現期間を設定している。

(3) 特徴

①非越波型波返し擁壁の採用

本護岸型式は従来の張り出し式護岸の断面形状を最適な曲面に改良した画期的なものである。施工規模は一般部の重力式函体460体、急峻部のジャケット式函体124体と大規模であり、鋼とコンクリートのハイブリッド構造とし、現地作業工程を大幅に短縮した。

②急深部斜面の地すべり抑止・大規模地震対策

大規模地震に対応するため延長880mに435本の鋼管杭を千鳥に配置し連結工で剛結合した。さらに波返し護岸をジャケット式函体で連結している。

③コスト縮減対策

非越波型波返し擁壁の採用による構造の小型化、鋼管杭の千鳥配置と杭頭連結による剛性の向上、さらに鋼管杭の陸上施工を可能とする構造改良により、大幅なコスト縮減を実現した。

(4) 将来展望

本拡幅構造は、海岸道路の波浪対策と耐震性能の向上、およびコスト縮減を同時に解決した画期的構造であり、我国の道路・海岸構造物構築のモデル事業として、今後の海底急深部での海岸道路の計画適用範囲を拡げるものと期待される。更に消波ブロックを必要とせず海浜の改変が小さく自然環境と景観の保護にも優れている。

6. おわりに

東日本大震災の被災地では、風評被害も含め日常生活、経済活動等への影響が続く中、一日も早い復興が求められている。一方、近年の自然災害の発生状況は、いつ・どこで起こるか分からない災害等への備えとして、『安全・安心かつ強靱なまちづくり』が極めて重要である。

私たち土木エンジニアの使命としては、震災復興はもとより、総合防災技術を生かし、今後想定される大規模災害をはじめ、日常的に多発する自然災害等への対策に引き続き取り組んでいきたいと考える。

平成27年度 WAVE・JCCA 欧州インフラ事情調査

株式会社復建技術コンサルタント 佐藤 義嗣

1. はじめに

欧州の社会インフラ事情を調査することを目的として、5月31日～6月10日までの日程で欧州4ヶ国に訪問してきました。これは、一般財団法人港総合研究財団と一般社団法人建設コンサルタント協会が合同で実施しているもので、平成21年から毎年1回実施されており、今年で7回目になるようです。

今回は、以下の3点を視察の主な目的として、フランス、ベルギー、オランダ、ドイツの4ヶ国を総勢28名で訪問してきました。

- 一つ目：各国の社会資本を視察し、今後のわが国におけるインフラ整備のヒントを得る
- 二つ目：欧州の歴史や風土などの文化に触れることで、個々が持つ能力の成長を促す
- 三つ目：港湾、道路、交通、構造、都市計画、河川、地質、環境など、多様な分野の専門技術者同士での交流を図る

フランスでは、ノルマンディー地方の港湾都市5港の視察を行い、そのなかのル・アーブルでは、団員全員で港湾局を訪問しました。ベルギーでは、旧市街地の町並みを保存している3都市を散策しながら視察しました。また、一般財団法人みなと総合研究財団から参加した団員は、アントワープ市港湾局を訪問しました。オランダではロッテルダムの巨大港湾や世界初の歩行者天国など、現代的な街並みを視察し、アムステルダムでは中央駅周辺を中心市街地と運河、そしてアイセル湖の大堤防を視察しました。ドイツでは、高速道路や州道・郡道を利用して都市間をバスで移動しながら、ハンブルクの港再開発地区と旧市街、エリカ街道沿いの中都市ツェレ、そして東西分断時代の名残が残る首都ベルリンと、近郊のポツダムといった個性的な都市の視察をおこないました。



2. 視察先の概要

(1) フランスの港町

フランスの港町はそれぞれに独創性があり、とても魅力的で、その土地ごとの特長を生かして街づくりをしているため、同じ様な風景の港はありませんでした。同行した団員のうち港関係の方々が、「日本でもこれを見習う必要がある」といっていたのが印象的です。

1) ルーアン港

ルーアンはノルマンディー地方の河港都市で、セーヌ川の河口から50km内陸に入った位置にあり、大型船でも廻ることができたため、古くから栄えてきました。フランスでは5番目に規模の大きな港で、穀物の出荷高ではヨーロッパで第1位です。



左の建物がジャンヌダルク寺院

2) ル・アーブル港

ル・アーブルは大西洋沿岸に位置していたため、第二次世界大戦で最大級の被害をうけた街だそうです。戦争後すぐに、「コンクリートの父」と呼ばれる建築家オーギュストペレにより街が再建され、近代都市へと生まれ変わったことで有名であり、街並みが世界遺産に登録されています。

現在の港は増築され、ヨーロッパ西部で最大



大量輸送のコンテナ船

級の港になっています。港湾局を訪問した時に受けた説明では、現在の港湾開発は、環境との調和や地域住民とのコンセンサスを図りながら行っているとのことでした。

3) オンフルール港

オンフルールは、フランスのノルマンディー地方の港町で、観光地としても良く知られており、多くの観光客が訪れます。また、港の風景は印象派の題材ともなり、多くの画家が風景画を残しています。



オンフルール港

4) ドーヴィル港

フランス・カルヴァドス県の町にある港であり、リゾート地として栄えています。町には、大きなホテルやカジノがあり、港には豪華なヨットが並んでいます。



ドーヴィル港

5) ディエップ港

14世紀ごろから漁港として発達してきた港で、北海周辺のニシン漁のための最大の漁港だったようです。現在でも漁港としての地位は高く、さらにイングランドとのフェリーが就航していることで、イギリスの観光客が多いよう

です。現在、貿易港としてはバナナの輸入港としてフランスで第1位だそうです。



ディエップ港

(2) ベルギーの都市

ベルギー王国は、西ヨーロッパに位置する連邦立憲君主制国です。ベルギーは世界でもっとも高密度な道路網を保有しており、さらに、電車やトラム、バスなどの公共交通機関が発達している国であります。

1) ブルージュ

ブルージュは、ベルギー北西部、フランデレン地域の都市で、ウェスト＝フランデレン州の州都で、ベルギーの代表的な観光都市の一つであり、2002年には、スペインのサラマンカとともに欧州文化首都に選定されました。地名の由来は「橋」であり、市内に張り巡らされた運河に架かる無数の橋に因んでいます。



運河クルーズ

ブルージュは重要スポットが中心部に密集しているので、風景を愛でながら徒歩でゆったり巡るのが基本スタイルで、旧市街地の端から端まで歩いてもおよそ30分ほどです。自慢の景観を守るため、市が中心となり車を排除するよう積極的に取り組んでおり、さらに、マルクト広場から世界遺産のベギン会修道院までは、観光客を乗せた馬車がひっきりなしに通る、車は

馬を追い越せずにこの後ろを走るので、あまりスピードを出すことができません。

2) ゲント

市名は「(川などが) 一つに集まる、合流する」というケルト語に由来しています。ブリュッセル、アントワープに次ぐベルギー第3の都市で、中世の輝かしい過去と、活気に満ちた現代とが美しく調和した町です。町はレイエ川とスヘルデ川が合流する地点に広がっていて、その水辺の風景が美しい都市です。

ゲントは「花の都」とも称されるように至る所に花が溢れ、ゆったりとした雰囲気が漂っているのも魅力で、さらに、夜景の美しさでも有名で、夕暮れ時から夜にかけて町の至る所がライトアップされます。夜空に浮かび上がる中世の建物や水面にきらめくギルドハウスなど、驚くほど幻想的な風景が広がり、とても綺麗でした。



聖バーブ大聖堂

3) アントワープ

アントワープは、ベルギーのフランデレン地域・アントウェルペン州の州都でベルギー第2の都市で、スヘルデ川の右岸に位置しています。この川はオランダ南西部ゼーラント州の西部ス



「フランダースの犬」で有名なルーベンスのキリスト降架

ヘルデ河口域を経て北海につながっています。アントウェルペンには大きな正統派ユダヤ人(ハレーディー)のコミュニティがあり、そこから「西のイエルサレム」との綽名があります。

(3) オランダの施設

西ヨーロッパに国土の大半が位置しており、カリブ海に特別自治体の島を所有しています。首都はアムステルダムとなっていますが、王宮、国会、中央官庁、各国の大使館などの主要施設はデン・ハーグにあります。

1) ロッテルダム

ロッテルダム港はオランダ・ロッテルダムにある港湾で、ヨーロッパ最大の港です。ロッテルダム(Rotterdam)の由来はロッテ(Rotte)川の堤防(dam)で、ライン川と北海の結節点として発展してきました。1250年ころに海水面上昇による塩水の内陸への浸入を防止するため、ロッテ川と新マース川を仕切る堤防を作ったことで、ロッテルダムが港町として発展しました。



ユーロマスストから望むロッテルダム港

2) ユトレヒト

オランダで4番目の都市であり、首都アムステルダムから30キロほど南に位置しています。

ユトレヒトでは、ユトレヒト大司教がオランダ・カトリック教会で最も重要な地位を担っています。また、復古カトリック教会の大主教座や、プロテスタント教会の教区事務所もユトレヒトに置かれており、17世紀にアムステルダムがその地位を奪うまで、ユトレヒトは北オランダで最も重要な都市でした。



「ミッフィー」の作家はユトレヒト出身

3) アムステルダム

オランダ北西部に位置するオランダの首都で、港湾都市であり、13世紀の小漁村から1300年に都市権を獲得して、その後貿易港として発展しました。

アムステルダムには、延長30kmの大堤防があり、アイセル湖と北海(ワッデン海)を分断している。現在、堤防上に高速道路が建設されており、展望台や休憩所を兼ねたスポットがあります。



アイセル湖の大堤防



エダムの風景

4) フローニンゲン

フローニンゲンは、オランダ北東部に位置する商工業の中心都市であり、オランダで最も北にある砂丘列（ホンドスラフ、Hondsrug）の上に造られています。面積は約84km²で、東京23区内で最も大きい大田区（約60km²）の1.4倍程です。



フローニンゲンの街並み

(4)ドイツの歴史

ドイツの国境は9か国（北：デンマーク、東：ポーランド・チェコ、南：オーストリア・スイス、西：フランス・ベルギー・ルクセンブルク・オランダ）と接しており、ヨーロッパの中心的な位置にあります。この国境は、戦争のたびに変更になり、現在の国境線となったのは第二次世界大戦後です。

1) ブレーメン

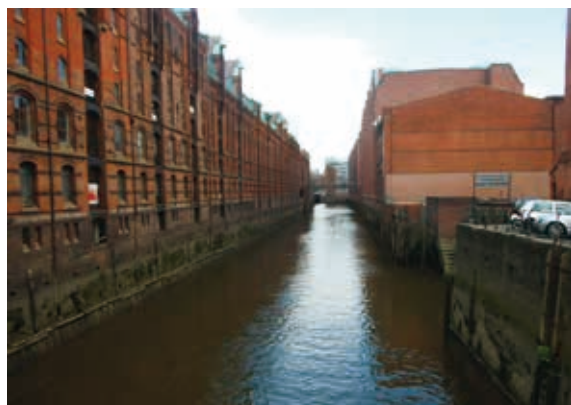
ブレーメン市は、歴史的価値のある市庁舎（2004年に世界遺産登録）や、聖ペトリ大聖堂、海外博物館などがあります。また、研究や技術開発に必要なインフラの整備にも力を入れており、北西ドイツにおけるハイテク技術の中心で、伝統ある企業からイノベティブな企業までがブレーメンを拠点にしています。



市庁舎とローラント像（出展：Wikipedia）

2) ハンブルグ

ハンブルグ市の中心をエルベ川が流れており、多数の運河に大小の運河橋が架けられています。また、エルベ川支流のアルスター川を堰き止めて、外アルスター湖・内アルスター湖が作られており、ケネディ橋・ロンバルツ橋が架けられています。面積は約755km²で、ドイツ全16州のなかで、ブレーメンのつぎに小さな州です。



ハンブルクの倉庫街

3) ツェレ

ツェレは、ニーダーザクセン州に属する都市で、人口は約7万人、ドイツの首都ベルリンから西へ230kmの場所に位置しています。戦争の被害が少なく、街並みが美しいことから、『北ドイツの真珠』と呼ばれています。小さな路地にはいると、カラフルな装飾を凝らした古い木組みの美しい家がギッシリ並んでおり、この風景は、まるで童話の世界から抜け出てきたようでした。



ツェレの街並み

4) ポツダム

ポツダムは、ドイツの首都ベルリンから南西へ28kmの場所に位置しており、ドイツ北東部

にあるブランデンブルク州の州都です。観光の名所としては、世界遺産「ポツダムとベルリンの宮殿群と公園群」を構成するサンサーシー宮殿、シャルロッテンホーフ宮殿、ツェツィーリエンホーフ宮殿、新庭園などがあります。

5) ベルリン

ベルリンは、19世紀のドイツ帝国成立とともに、ドイツの首都でしたが、第一次世界大戦でのドイツ帝国崩壊により、ヴァイマル共和国の首都になりました。さらに、第二次世界大戦ではナチス・ドイツの最後の戦場となり、ベルリン市街戦で約12.5万人の犠牲者がでました。

第二次世界大戦後、1949年に東西ドイツが分裂して独立し、ソ連占領地区東ドイツの首都は東ベルリンとなり、ドイツ連邦共和国が主権をもって実効的に統治する西ドイツは首都をボンにおきました。

東西ドイツの国境が封鎖された後も、東西ベルリンの間だけは往来が自由で、労働人口の流出を防ぐため1961年8月13日に、東ドイツ政府は東と西との境界線上にベルリンの壁を建設しました。その後、1989年11月9日、東ドイツ政府は境界線を開放し、ベルリンの壁は崩壊しました。1990年10月3日にドイツが統一され、1991年にベルリンが統一ドイツの首都とな

り、ボンからの連邦政府諸機関の移転も進められ、首都機能の移転は2001年5月2日に完了しました。

ベルリン中心部のティアガルテン公園の近くにヒロシマ橋という橋があります。在ドイツ日本大使館の広報によると、「ベルリンの壁が崩壊した翌年の、1990年にグラフ・シュベール橋から改名された。改名の背景としては、1945年5月7日にドイツが無条件降伏していなければ、最初の原爆がベルリンに使用されていたかもしれないということによる広島への連帯感といわれている。」となっています。詳しいことは、在ドイツ日本大使館のホームページに記載されているので、一読することをお勧めします。



ヒロシマ橋

3. おわりに

今回の視察で理解できたことのひとつに、チップの払い方がありました。ガイドさんいわく、「払いたければ払えば良いし、払いたくなければ払わなくてもよい」、つまり、受けたサービスの具合で受けた人がきめるということ。なるほど、チップが要らないお店、携帯カバーを買いに入ったソフトバンクでは、店員さんはつけんどんでした。

欧州視察を終えて、今まで2次元の情報としてしかわからなかったことがらを、実際に体験することで、よりリアルに認識することができるようになった気がしています。ヨーロッパの風景や街並みが魅力的で、歴史や文化もとても興味深く、これからの日本のお手本にするべきところも沢山あるように思いました。次に行く時には、もっといろいろなことを感じて、考えられるようになりたいと思います。



ベルリンの壁：撤去されたところにはプレートが埋め込まれています



チェックポイントチャーリー：東と西の兵士が見張っていた場所です

若手女性技術者の1年目

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 東北支店 技術部 小林 桂子

1. 入社して1年を終えて

昨年の2014年4月に新卒で入社して1年が経過しました。大学時代の専門分野であった交通分野の業務に携わり、入社前からある程度覚悟していた“繁忙期”もなんとか乗り切り、技術者として過ごした1年間を振り返った感想をまとめたいと思います。

現在所属しているチームには、学生時代からアルバイトとして数か月仕事をしてきたため、入社後もすぐに環境に慣れることができました。日々の業務の他に、支店でのイベントの企画や、専門知識を深めるため学会への参加等、忙しくも楽しく過ごしてきました。年度末が近づくにつれて段々と残業時間が長くなり、プライベートの時間を持てず、辛いと感じるときもありましたが、無事仕事を終えたときには、大きな達成感を味わうことができました。

入社して1年を終えて、「女性だから」という偏見のようなものは受けることなく、1人の若手技術者として仕事に取り組むことができたと思います。

2. 女性社員の働き方検討ワーキンググループ

今年1月に、社内で発足した「女性社員の働き方検討ワーキンググループ（以下WG）」のメンバーに、東北支店の代表として選ばれました。弊社は多様な社員が働きやすく、活躍できる職場環境づくりを推進しており、その取り組みの1つとして、男性よりも早期退職傾向にある女性社員の定着と活躍を目指して発足したWGです。WGメンバーは全国の各支店から1人以上メンバーに選出され、若手から幹部職まで、産休・育休等の制度を活用したことがある人とない人を含めて構成されました。

WGは1～2か月に1度、全員が本社に集まって会議を行いました。そこでは、在宅勤務制度の新設や、女性社員のネットワーク構築、女性のキャリア事例や制度活用事例等をまとめたガイドラインの策定等、様々な成果を上げました。

東北支店に技術の女性社員は私しかいなかったため、WGに参加して、他支店の女性の働き方や、産休・育休を取って復職された方のお話を伺うことのできる

貴重な場となりました。全国の支店の女性社員とのネットワークができたということも、ありがたいことでした。リクルート活動の一環で、高専生に女性技術者の働き方を講演する機会をいただいたときに、内容について他支店のWGメンバーに相談し、アドバイスをいただいたこともありました。

3. 今後の働き方について

実は私は最近結婚しました。家庭で過ごす時間を確保したいため、ワークライフバランスを意識して働きたいと思っています。まだまだ技術者として2年目、覚えるべき仕事はたくさんあり、ある程度の仕事量、残業は覚悟しています。今はまだがむしゃらに働くべき時ではありますが、その中でも個々人で仕事の効率化を進めるとともに、業界全体として何かしら長時間就業を改善するための動きも必要だと感じております。土木を学んだ学生がこれから就職する際に、長時間就業を理由に土木業界、コンサルタント業界への就職を諦めるようなことがないように、男女問わず働きやすい環境を作っていく必要があると思います。



【仕事風景】



【常磐自動車道開通記念サイクリング】
会社の人に誘われて自転車始めました

青森のねぶた・ねぶた・立佞武多

株式会社コンテック東日本 工藤浩一

1. はじめに

青森の夏と言えば「ねぶた」である。青森県の津軽地方では毎年8月に入ると「青森のねぶた」「弘前のねぶた」「五所川原の立佞武多（たちねぶた）」に代表される祭りが花火大会などと合わせて盛大に催され、各地域が参加者と観光客で熱気に包まれる。

また、時をほぼ同じくして黒石市・平川市・つがる市・むつ市および近隣町村でも、ねぶた祭りが地域住民や商工会・学校・子供会を中心として開催される。祭りが終わるとお盆に入り、お盆が過ぎると気候も涼しくなり、秋を迎えるといった感じである。

今回、本寄稿を依頼された時「はて題材は？」と首を傾げることもなく、「ねぶた祭り」と即決した。そして、今年は本稿取材の必要もあり8月3～6日までの4日間、青森・弘前・五所川原の三大ねぶた祭りを天候にも恵まれ、堪能することができた。

2. ねぶたの由来・変遷

歴史上、確認できる「ねぶた」の記録としては1722年（享保年間：徳川吉宗の時代）に津軽藩第五代藩主が高覧したとある。「ねぶた」も同様の記録が享保年間にある。いずれもその由来は、中国から渡来した「七夕」と古来土着の習俗「精霊送り」などの行事が変化し、紙・竹・ローソクの普及により人形や扇の形状になったと考えられている。

私が子供の頃にねぶた起源の通説として、のちに征夷大將軍となる坂上田村麻呂が蝦夷討伐の際に敵を油断させ、おびき寄せるために用いた「大灯籠・笛・太鼓」に由来するものと聞かされた。

青森のねぶたを有名・発展させた大きな要因のひとつに、1958年（昭和33年）に国鉄が【東北三大祭り】として周遊券を発売し、首都圏で人気となったことが挙げられる。その後、1980年（昭和55年）に青森ねぶたと弘前ねぶたは【国の重要無形民俗文化財】に指定されており、東北地方の主な夏祭りとのパッケージツアーが生まれ現在、本県の大きな観光資源となっている。ちなみに、東北最大の夏祭りである青森ねぶた祭は、期間中入込客数約300万人、経済波及効果約500億円といわれている。

	2015 祭りポスター	祭りの概要
青森ねぶた祭		期間：8/2～8/7
		夜間合同運行 PM7：10～9：00 (8/7 昼～夜：海上運行)
		雨天中止なし
		形状：大型人形
		出陣台数：22台
		海上運行：6台
		幅：約9.0m
高さ：約5.0m		
奥行：約8.0m		
掛声：ラッセラー		
人出：約300万人		
弘前ねぶたまつり		期間：8/1～8/7
		夜間合同運行 PM7：00～9：00 (8/7 は午前～)
		雨天中止あり
		一般形状：扇形
		大型組ねぶた有り
		参加団体：80組
		40～50台/日出陣
高さ：約5.0m		
ハネトなし		
掛声：ヤーヤドー		
人出：約160万人		
五所川原立佞武多		期間：8/4～8/8
		夜間合同運行 PM7：00～9：00 (8/3 は花火大会)
		雨天中止なし
		形状：大型人形
		出陣台数：15台
		大型立佞武多：3台
		鉄骨構造パーツ組
高さ：約22.0m		
重さ：約19.0t		
掛声：ヤツマレ		
人出：約130万人		

また、1996年（平成8年）に立佞武多が80年ぶりに復活し、はじめて見た時の圧倒的な感動は今も忘れられない。ねぶた祭りが現在のような発展をなし得たのは、ねぶた本来の魅力に加え通年で体感・堪能できる施設が整備されたこと、高速道路網および東北新幹

線 2010 年新青森駅開業による鉄道網整備との相乗効果発現によるものと考えている。

3. 三大ねぶた祭りの概要

青森のねぶたは「躍動」、弘前のねぶたは「幽玄」、そして五所川原の立佞武多は「圧巻」が、私の個人的感想である。ここで、各ねぶた祭りの概要として期間・出陣台数・大きさなどについて触れたい。

4. ねぶた制作と常設展示施設

青森ねぶたの題材は、日本や中国の伝説や歴史上の人物・歌舞伎・神仏などによることが多く、題材の決定から完成まで 10 の工程からなる。大型ねぶた制作は、大手企業・官公庁・学校法人等がスポンサーとなり、青森市アスパム裏手に設けられた「ねぶたラッセランド」と呼ばれる制作小屋でその過程を覗くことができる。また、常設展示施設として JR 青森駅海手に「ねぶたの家ワラッセ」がオープンし、その魅力を体感することができる。



ねぶたラッセランド



ねぶた制作過程

一方、弘前扇ねぶたの題材は、正面鏡絵部分は三国志・水滸伝等のいわゆる武者絵からなり、裏面中央部分は見送り絵と呼ばれ美人画からなる。主に、町会やグループ単位での運行となるため、7 月頃から制作小屋をあちこちで見かけることができる。そして、笛・太鼓・囃子の練習が7月中頃から始まり地域住民は否応にも祭り気分が高まる。また、弘前城天守閣の曳家工事が進展している、弘前公園近くの「津軽藩ねぶた村」では通年で、弘前ねぶたの実物展示やお囃子実演に触れることができる。



正面鏡絵部の武者絵



裏面中央部の見送り絵

三番目に、7 階立ビルに相当する五所川原の大型立佞武多は毎年 1 基が 1 年間を費やし制作され、鉄骨構造のパーツの合体からなり風速 15m まで対応可能、耐水性の特殊塗料を使用しているため多少の雨でも大

丈夫。もちろん、運行ルート上は電線地中化整備が行われている。立佞武多は、市内中心部に 2004 年オープンした「立佞武多の館」で、頭の Teppen からツマサキまで圧巻の 3 基をぐるりと見ることができうえ、来年出陣する立佞武多の制作風景までも見学できる常設展示施設である。



立佞武多の館から出陣



道路施設ギリギリ

5. 2015 ねぶた祭りの様子

今年夏のねぶた時期は天候に恵まれ、津軽の各地で盛大に祭りが行われた。青森市では 8 月 1 日の浅虫花火大会に始まり、7 日の青森花火大会とねぶた 6 台の海上運行によりフィナーレとなる。青森ねぶたには、制作運行・ハネト・囃子など総合的に優れた団体に与えられる賞があり、最高賞が「ねぶた大賞」である。残念ながら、大賞受賞ねぶたとの遭遇は叶わなかった。同様に、弘前ねぶたにも「青森県知事賞」をはじめとする賞が設定されている。



市長賞：JR ねぶた「津軽海峡 義経飛龍」



弘前ねぶたの合同運行

6. 終わりに

ねぶた期間は、連夜の祭り観光を楽しむ県外客が多く、宿泊の予約が非常に困難となる。東北各地には多くの祭りが存在すると思うが、やはり我が郷土の祭りが一番である。地域の祭りの更なる発展と継続を心より願う。



2015 大型立佞武多

羽州街道榑下宿に現存する石橋

対外活動部会 広報委員会委員 株式会社長大 荒木孝広

羽州海道、険しい金山峠を下ると榑下宿があります。山形県上山市榑下地区には明治時代に架橋した石橋が地域の生活を支え静かに佇みます。また参勤交代で行き交った町並みや茅葺き屋根が当時の繁栄を映し出します。時代は違っても自然豊かな地域と調和し、当時の様子を垣間見ることができます。

番所を通り出迎える新橋、お見送りは硯橋。



明治13年に竣工した新橋は金山川に架かる14.7mの橋です。当時、度重なる洪水で流出する木橋を石積のアーチ橋に道路改修を行いました。土木県令と称された初代県令三島通庸は県の補助金と通行人や荷車から徴収した橋銭を財源にしました。橋脚がないことから村民は恐る恐る渡ったそうです。



硯橋は明治15年竣工の同川下流に架かる10.8mの石橋です。左岸の山田屋は火災により明治18年に建替えられました。硯橋と一体で整備され見事な石垣になりました。一度ご覧下さい、隠れスポットです。

庄内藩主の常宿、庄内屋。



榑下宿には大黒屋、旧武田屋などが現存します。この庄内屋は18世紀中期に建てられたもので、庄内藩主が常宿した最も古いものです。街道は佐竹藩、庄内藩、津軽藩など13藩が参勤交代の宿場として、商人や出羽三山詣の旅人で賑わいました。



滝沢屋、歴史資料館のおじちゃんに感謝。

この地の歴史や生活の様子、脇本陣滝沢屋が保管する貴重な史書や某姫のかんざし、農耕具の解説をして下さいました。なによりも羽州街道の整備に精進した佐竹藩へ披露した「とっくり踊り」、徳利持って右に左に飛び跳ねるユーモラスな踊りが印象的でした。原稿を書くに当り熱く教えていただいたおじちゃん、「ありがとう。」

本原稿は東北地方整備局“ガイド東北”アプリを活用しました。詳しくは [ガイド東北](#)

これからが正念場

株式会社トーニチコンサルタント 東北支店 東北・青森事務所長 勅使 力

当社がどういう会社であるのか、それをご理解頂くため創業期からの歴史で説明したいと思います。

ルーツを遡ると、S33年（'58）に設立された㈱鉄道設計事務所と、S36年（'61）に設立された日立モノレールコンサルタント㈱という2つの源流があります。現在の㈱トーニチコンサルタントは、それら2社がS43年（'68）に合併した㈱東日交通コンサルタントを前身とし、S60年（'85）に社名変更したものです。

1つのルーツである鉄道設計事務所は、鉄道工事を中心とするゼネコン東鉄工業㈱の子会社として設立されたものです。高度経済成長で要請された国鉄の輸送力増強に伴う鉄道設計業務のコンサルとして成長し、線路と交差する道路等構造設計等にも展開していきました。

他方のルーツである日立モノレールCは、当時我が国の一大プロジェクトであった東京オリンピックの輸送受け皿となるモノレール羽田線の計画・設計・施工管理を主業務とする、初のモノレール専門のコンサルタントです。モノレールには跨座式（またがるタイプ）と懸垂式があり、全ての跨座式モノレールに当社は関わっています。

2つのDNAが組込まれた当社は、S43年（'68）、交通システムを中心とした総合土木コンサルタントとして新たに出発しました。あ・れ・か・ら47年…

東北における足跡も少し触れておきたいと思います。

東北における営業拠点として、新生3年後のS46（'71）仙台に東北出張所を開設しました。これは当社の中で名古屋・広島・大阪に次ぐ4番目の出店です。その後は東北新幹線や仙台地下鉄等の業務に伴ってS58（'83）に盛岡出張所、S60（'85）に青森出張所の開設、技術者の常駐化で対応してきました。

そして3.11東日本大震災の復旧復興に貢献するためH25（'13）には東北支店に格上げし、さらに地域に根差した業務を展開するべく充実した体制になりました。

東北支店を紹介させていただきます。

支店といえども少数精鋭ですが、若い力とともに東北の再興、インフラ補修補強、踏切改良等々に尽力したいと頑張っています。昨年度には建設技術研究所等とのJVで宮城県初の高盛土復興道路事業監理（CM事業）を経験しました。コンサルタントとして新たな領域への展開にも意欲的に取組んでいきたい所存です。

私は常々『コンサルタントは医師たれ』と感じております。技術力向上を常に意識し、全容を俯瞰しつつ課題への対処を先読みし、的確な技術を背景に顧客や関係者と適切な対応を話し合っ決めていく、そういう姿勢を医師になぞらえ、目標にしていきたいと思っております。

震災から間もなく4年半が過ぎ、所謂、集中復興期間を終えようとしています。我々コンサルにとってはこれからが正念場です。当社の良いところが受け入れられるように地道に努力していきたいと思っております。

結びに、まだまだ未熟な東北支店ですが、建設コンサルタンツ協会東北支部の一員に戻り、初心にかえって東北支部の発展に微力ながら寄与して参りたい所存です。皆様とともに東北の着実な復興、よりよく災害に強い暮らしづくりに力を注いでいきたい所存です。

会員の皆様、自治体関係の皆様、鉄道関係の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。



平成27年度支部定時総会

4月24日(金)16:45からパレス宮城野において会員100社中75社が出席し、平成27年度支部定時総会が開催されました。



定時総会会場

議事は、遠藤支部長議長のもと、次の方々の議事録署名人を選出し議事に入った。

井上 雅弘 (株)ドーコン 東北支店長)
大沼 正浩 (日本シビックコンサルタント(株)
東北事務所長)

続いて、議案の審議が次のとおり進められました。

(1) 平成26年度事業報告について

事務局長から一般報告として、会員数・内訳、事業報告として、各委員会の委員長から報告がありました。

(2) 平成27年度事業計画

遠藤支部長から平成27年度の事業の基本方針として、

①東北地方の社会資本整備の担い手として、東日本大震災からの復興の加速化を支援すると共に、国民に豊かな生活、地域の安全・安心が保てる社会資本整備の必要性を訴えていく活動を実施する。

②魅力ある建設コンサルタントとするため、経営の安定化に資する入札契約制度改善や受発注者協同による健全な労働環境の改善を提案し、人材が集う環境の整備を進める。

③既定の災害協定の見直しと、まだ災害協定を締結していない東北各県に対して、締結に向けての検討を継続して進めていく。

④プロポーザル方式及び総合評価落札方式において、技術力を重視した方式や地域企業の参加可能な方式などを具体的に提案することにより、入札契約制度の改善を推進する。

⑤価格競争において、東北地方整備局における低価格入札対策の改善、地方自治体における低価格調査制度と失格基準の改善などを提案することにより、適正な競争制度の確立に寄与する。

⑥会員企業が優良な技術と知恵を持続的に提供し続けるために、技術者育成と更なる技術力向上に取り組む。

⑦建設コンサルタント活動領域拡大のため、発注者支援業務への積極的な取り組みと、CMなど新たな業務領域を提案する。また、多様なコンサルタントの活用を図り、品質向上を実現するため、設計協同体方式の更なる活用を提案する。

⑧不当な取引制限や不当な低価格競争等を排除し、企業倫理を遵守する。

の提案があり、続いて、各委員会の委員長から各々の委員会での事業計画の説明がなされた。

(3) 平成27年度収支予算について

事務局長から説明があり、その後質疑があったが、質問はなく終了した。

第2号議案 支部役員の改選について

事務局長から支部役員の改選について、支部役員推薦者名簿の提案説明があり、その後、満場一致をもって承認可決された。

その後、支部長より新役員の紹介があった。

その他 意見・質問は無く、その後伊藤副支部長から閉会の挨拶があり、17:45終了しました。

平成27年度「建設コンサルタントの要望と提案」意見交換会

7月7日(火)「東北地方整備局」において本部と東北地方整備局・東北各県及び仙台市との意見交換会を開催しました。

出席者

(東北地方整備局)

縄田局長、津田副局長、渥美副局長、岡本総務部長、安田企画部長、安邊建政部長、鈴木河川部長、川崎道路部長、中島港湾空港部長、柴田技術調整管理官

(青森県) 松橋県土整備部整備企画課長

(岩手県) 小上県土整備部建設技術振興課建設業振興担当課長

(宮城県) 後藤土木部次長

(秋田県) 柴田建設部次長

(山形県) 會田県土整備部整備推進監(兼)次長

(福島県) 鈴木土木部次長

(仙台市) 村山都市整備局次長

(建設コンサルタンツ協会)

長谷川会長、村田副会長、前川副会長、永冶常任理事、野崎常任理事、高野常任理事、馬場常任理事、花岡常任理事、吉田対外活動部会委員、渡邊常任委員長、三百田対外活動副委員長、藤野参与、緑川業務部長、柳沢企画課長

(建設コンサルタンツ協会東北支部)

遠藤支部長、伊藤副支部長、江藤副支部長、中田対外活動委員長、松川広報委員長、中村総務部会長、佐藤地域コン委員長、三田技術部会長、新屋情報部会長

はじめに東北地方整備局縄田局長および建コン長谷川会長の挨拶、次に出席者紹介があり、次の様な意見交換が行われました。

意見交換

「建設コンサルタントの要望と提案」

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上



縄田局長挨拶



長谷川会長挨拶

9月1日「災害時対応演習」を実施

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は東北地方に激甚な被害をもたらしました。震災から4年半、復旧・復興へ向けて国、自治体あげて懸命の取り組みが続いております。東北支部も大震災では国、宮城県との災害協定に基づき、被災状況の調査などに取り組みましたが、この震災対応を今後の被害対応に生かすべく、東北各県との災害協定の締結など検討を進めているところです。

建設コンサルタンツ協会では、毎年「災害時行動計画」に基づく演習を毎年実施しております。

本年度は9月1日(火)中国地方(震源地 安芸灘)においてマグニチュード8.0の大規模地震が発生し、東北支部に災害対策支部を設置したとの想定で演習を実施しました。

- ①中国支部に災害対策現地本部を設置するとともに本部に災害対策本部を設置
 - ・災害対策本部から各支部に対し災害対策の指示
 - ・上記指示に基づき支部長から災害対策支部員の招集、災害対策東北支部設置
 - ・災害対策東北支部から災害対策本部へ支部設置の報告
- ②災害対策支部員から「連絡会員」へ被害状況を携帯電話により照会
 - 連絡会員から被害状況をFAXにて受信
- ③災害対策本部及び災害対策現地本部から災害時行動支援の要請
- ④災害対策東北支部から「調査員の派遣」を協議・調査員派遣会員から災害地現地調査員の派遣の同意をFAXにて受診

今回の演習にあたり支部の「防災演習計画」及び進行予定表を作成し、その中で支部会員101社の内15社を「連絡会員」として又9社を「災害現地調査派遣会員」と抽出し連絡伝達等の演習を行うこととした。

また、会員各社には、会社独自の演習を実施するよう要請しました。

※実施項目

1. 建物(特にエレベーター)、什器、備品類～損壊、転倒等の点検
2. 停電、断水、ガス漏れの点検

3. 消火器(使用期限)、トランジスタラジオ、携帯電話、懐中電灯の点検
4. 非常用保存食品、救急医薬品、作業用具の点検
5. 出張職員等の安否の確認

今回の演習の通信連絡はEメール、FAX、電話の併用ですが、「災害伝言ダイヤル」も運用されました。「連絡会員」及び「災害現地調査会員」にご指名されました会員各社には、ご多忙の中ご協力いただきありがとうございました。



連絡会員会社に被災状況照会する災害対策東北支部員

連絡会員

アジア航測(株)、(株)アスコ、(株)ウエスコ、(株)片平エンジニアリング、(株)昭和土木設計、新和設計(株)、(株)総合技術コンサルタント、(株)地圏総合コンサルタント、中央復建コンサルタンツ(株)、(株)千代田コンサルタント(株)テクノ長谷、(株)ドーコン、(株)日本港湾コンサルタント、日本シビックコンサルタント(株)、(株)東日本建設コンサルタント

災害現地調査会員

応用地質(株)、(株)菊池技研コンサルタント、(株)建設技術研究所、(株)郡山測量設計社、昭和(株)、創和技術(株)、(株)東建工営、日本振興(株)、陸奥テックコンサルタント(株)

地盤専門委員会の紹介

地盤専門委員長 応用地質株式会社 菖蒲 幸男

1. 地盤専門委員会の概要

地盤専門委員会は平成23年に技術部会の5番目の専門委員会として設立しました。それまでの専門委員会は事業あるいは業種別の専門委員会でしたが、本委員会はすべて事業に関わる地盤そのものを対象にしたものです。

委員会の活動としては、①会員技術者の技術向上、継続教育の研修会の実施、②国土交通省・地方自治体への講師派遣、③現場見学会の実施、④地盤に関わる情報の収集、他学協会との交流の実施などです。

2. 地盤専門委員会のメンバー

地盤専門委員会では、その名前が示す通り地盤に関わる事項を対象としているため、委員の専門も、地質調査、土質調査、トンネル、軟弱地盤および地すべり関係など多岐にわたっています。

役職	氏名	勤務先
委員長	菖蒲 幸男	応用地質(株)
副委員長	今村 隆広	(株)復建技術コンサルタント
副委員長	東瀬 康孝	パシフィックコンサルタンツ(株)
委員	細谷 健介	新和設計(株)
委員	橋本 智雄	中央開発(株)
委員	荒井 裕則	(株)千代田コンサルタント
委員	橋尾 宣弘	(株)エイト日本技術開発
委員	山口 淳熙	大日本コンサルタント(株)
委員	梶原 保志	(株)福山コンサルタント
委員	梶原 信夫	川崎地質(株)
委員	齋藤 淳	(株)総合技術コンサルタント
委員	山部 哲	(株)建設技術研究所
委員	中村 芳貴	国際航業(株)
委員	松尾新二郎	日本工営(株)
委員	正岡 裕之	応用地質(株)

3. 地盤専門委員会の主な活動

(1) 講師派遣

毎年、4～5講座に講師の派遣を行っています。平成26年度は青森県、東北地方整備局東北技術事務所、福島県、岩手県の各講習会に延15名の講師を派遣しました。

講習会の内容は土質試験と目的、軟弱地盤対策、地盤支持力、地盤定数、法面対策工などです。

(2) 現地見学会

平成26年度に委員会が設立後初めての現地見学会を開催しました。見学場所は東北地方整備局新庄河川事務所所管の志津地すべりの現場にて開催し、見学のあとは、弓張平体育館に会場を移して意見交換会を開催しました。

(3) 技術士試験対策

受講希望者を対象に建コン事務局会議室で模擬面接を実施しています。受講希望者は応用理学(地質)のほか、建設部門のトンネル、電力土木、土質および基礎、河川砂防および海岸・海洋で地盤を対象とした受験者の面接を行っています。

(4) 照査基準

詳細設計においては照査報告書のひな形はありますが、地盤調査を対象とした照査報告者は、各自作成しているのが実情であります。従って、現在各委員が使用している照査報告書をもとに、調査業務で使用できるような照査報告書の作成を実施中であります。

4. 今後の活動

今後も講師派遣、現地見学会、技術士試験対策等を引き続き実施する予定であります。これらの活動を通して会員技術者の技術向上の貢献できるように努力していきたい。

EE東北'15

今年で25回目となる『EE東北'15（イーイトウホク イチゴ）』が下記の通り開催されました。今年は「東北の明日を支える 新技術」をキャッチコピーとして、UAV 競技会や就職相談コーナーなど過去にない新しい企画も実施された他、例年通り特設ステージでのプレゼンテーションも行われ、室内外のブースは連日多くの見学者で賑わっていました。

■開催概要

期 間：2015年6月3日(水)～6月4日(木)
 場 所：みやぎ産業交流センター《夢メッセみやぎ》
 来場者数：過去最多 14,000人 ～主催者発表値
 出 展 者：310団体・企業（過去最多）
 出展技術：845（過去最多）

建設コンサルタンツ協会東北支部からも 以下のとおり 多くの出展技術の紹介がありました。また今回初めて開催された UAV 競技会の総合技術部門では当支部会員の(株)アスコ（準優勝、プレゼンテーション賞）、パシフィックコンサルタンツ(株)（ベスト計測賞）の2社がそれぞれ受賞されました。

東北支部会員出展一覧表

会社名	新技術名称	概 要
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング	ボルタンメトリー分析計による現場迅速分析	誰でも簡単・安全・迅速に現場で高感度分析を実現！土壌汚染（重金属）の簡易分析
	3D レーザースキャナによる構造物調査	早く・正確に・安全に3Dデータが取得でき、CADソフトなどを利用した様々な活用が可能。
(株)アスコ	全空間移動体レーザーシステム（ASM）	高精度トータルステーション（0.1mm 距離計測、0.5 秒角度計測）による3次元変位計測技術
	UAV による三次元航測図化・オルソ画像作成	小型無人航空機撮影写真による三次元図化技術とその応用
(株)ウスマ地域総研	UAV の活用技術	UAV（マルチコプター）空撮等の活用により、安全で迅速な作業を実現し、調査・点検分野を支援します。
	リモコンポートによる災害調査	施工性の効率化、安全性の向上、作業工程の短縮化を実現、本機の持つパフォーマンスを最大限に発揮する災害調査
応用地質(株)	液状化ポテンシャルサウンディングピエゾドライブコーン	液状化調査の新革命。狭い場所で、リアルタイムで、液状化判定。
(株)オリエンタルコンサルタンツ	オリエンタルコンサルタンツが進めるインフラ保全・運営管理	ACK グループは、地方創生や国土強靱化に関連した社会ニーズに応えるべく、様々なインフラや公共施設の保全・運営管理の取組みを行っています。
	ドライブレコーダーを活用した交通安全プロジェクト	ドライブレコーダーを用いた交通安全支援サービス（製品名：車録・Dr. ワトソン）を活用し、ドライバー、道路施設、市民への総合的な働きかけによる交通事故削減を目指しております。
	安全・円滑でエコなラウンドアバウト（環状交差点）	交差点での交通の安全確保、円滑化が期待できる「ラウンドアバウト（環状交差点）」の計画、調査・研究、設計を実施しております。
基礎地盤コンサルタンツ(株)	GP（ゲルプッシュ）サンプラー	GP サンプラーとは、取り込んだ試料を潤滑剤（高濃度ポリマー等）で包むことにより、細粒土の流失を防ぎ、「乱さない地盤資料」を高品質で採取する方法です。
	SBIFT（原位置せん断・摩擦強度試験）	SBIFT とは、ボーリング孔を利用して、直接地盤の周辺摩擦力(f)、強度定数(C, φ)を求めることが可能な試験方法です。
(株)建設技術研究所	トラプロ分析サービス	トラックプローブデータによる物流最適化サービスのご提案

会社名	新技術名称	概 要
(株)構研エンジニアリング	インフラマネジメントシステム (IMS)	「道路防砂点検」「橋梁点検」「トンネル点検」の効率化を可能にする『インフラ点検マネジメントシステム』
	Soil Bump (r 既設落石防護擁壁の補強工法)	既設無筋コンクリート製落成防護擁壁の耐衝撃性を1,000kJ級に向上させるための緩衝システム
	移動式定点撮影システム	GPS位置情報を利用した移動式定点撮影システム「位置情報プログラミングにより同一箇所の繰り返し自動撮影が可能」
(株)昭和土木設計	UAVによる3次元地形データの設計分野への応用	UAVの応用 3次元地形データの設計実務への利用
(株)ダイヤコンサルタント	高真空N&H工法	気水分離システムの導入により高い真空圧を継続的かつ安定に維持できる改良型真空圧密工法
	高周波衝撃弾性波調査	非破壊手法による形状寸法・亀裂調査から健全性の評価・診断まで
	光(色)による可視化モニタリング技術	光で危険を知る!—あらゆる計測データを光の色で即時確認・判断—
中央開発(株)	微細泥水気泡コアサンプリング工法	新開発の気泡泥水を用いた工法により、地質調査、防災分野で求められる高品質コアサンプリングを行う技術です。
	斜面崩壊検知センサー「感太郎」	その危険をいち早く感知 ~斜面の変状を見逃さない「安全・安心」の実現に向けて~
	地盤情報提供サービス「地盤情報ナビ」	地盤情報、地盤リスクや液状化リスクに関する情報を検索できる専門家向けのポータルサイトです。
中央復建コンサルタンツ(株)	防災 CIM	3次元モデルを利用した道路防災情報と、施設の維持管理技術の紹介
(株)長大	LiveScope (ライブスコープ)	撮影した動画をリアルタイムに配信・共有!
	道路施設点検支援システム	道路施設点検をトータル支援!
基礎地盤コンサルタンツ(株)	土壌・地下水汚染自動浄化システム	3N注入工法(土壌・地下水汚染自動浄化システム)原位置油分解微生物による最強の浄化促進・管理技術!
	型枠リユースシステム リユースボード「型丸」	コンクリート建設廃材を循環型建設資材にする「型枠リユースシステム」
	地域公共交通総合連携計画 オンデマンドバス	到着時間を守りながら運行経路を完全自動生成するオンデマンド交通システム
(株)東京建設コンサルタント	センシング情報配信サービス「わかるくん」	観測クラウドの端末(子局)センサー設置によるセンシングデータのWebベース閲覧のサービス
	ドップラー水象レーダー	可搬式の河川観測レーダーです。橋上、海岸等から洪水流に非接触で流速分布や浸食監視等が可能です。
	実験水路用電波式流速プロファイラー	水理模型実験における横断方向の流速分布計測と水面高分布の計測が迅速に可能です。流水に非接触で計測が可能です。
(株)ドーコン	プローブパーソン調査システム	スマートフォンのGPS機能を活用したプローブパーソン調査システム「毎ログ」
	CSG技術	コスト縮減と環境負荷軽減に資するCSG技術
	雪水冷熱エネルギー	寒さはエネルギー!雪氷の利活用技術…北国ならではのエネルギー「雪氷」を建物の冷房や食品の貯蔵に利用する取り組みを紹介します。
日本工営(株)	壁面自動追尾型水路トンネル撮影装置「モモタロウ」	通水中の水路トンネルで覆工の変状をキャッチ!
	危機管理クラウド	危機管理クラウドは(独)防災科学技術研究所と関係省庁が連携して行った「官民共同危機管理クラウドシステム」の開発プロジェクトの成果をベースに日本工営が自治体向けにサービスを提供するものです。
	自動降灰・降雨量計	噴火時の降灰・降雨量のリアルタイム観測 一積雪・高山域での災害の監視・観測に向けて~
(株)ニュージェック	海の浚渫土砂を建設材料に使用する技術	浚渫土砂(海砂)を用いて宅地造成・堤防盛土の材料やコンクリートの骨材に使用する技術開発
(株)ネクスコ・エンジニアリング東北	带状ガイドライト(带状視線誘導)	带状の光を路面に照射し、外側線の位置を連続的な線状の光で明示します。
	トンネル照明LED化ユニット	既設トンネル蛍光灯器具を使用し、安価にLED化を実現
	橋梁桁端部電気防食補修工法 GECS工法	橋梁桁端部・狭陰部の塩害対策電気防食を可能に!

会社名	新技術名称	概 要
パシフィックコンサルタンツ (株)	UAVによるダムの水上・水中の3次元計測	多視点画像3D構築技術によるダム水上・水中点検システム
	樋門・樋管の点検・診断システム	河川構造物の樋門・樋管を効率的かつ効果的に点検・診断を行うシステム
	フェイズドアレイレーダーを用いたゲリラ豪雨予測	次世代降雨レーダーデータ活用によるゲリラ豪雨などの早期予測の可能性検討
	下水道管路施設の劣化予測	下水道管路のストックマネジメントの構築に資する統計的手法を用いた劣化予測技術の開発
	走行型計測によるトンネル調査MIMM-R	走行型計測技術による高精度地形測量およびトンネル調査システム【MIMM-R】
	多視点画像3D構築技術による橋梁調査	多視点画像計測によるインフラ構造物（橋梁）の3D技術
	社会資本情報プラットフォームのご提案	社会資本インフラ情報を適切に蓄積・管理し、情報の共有化・見える化を支援
	スマホを活用した道路パトロール支援システム	道路上に発生した異常事象をスマホ等で簡単に登録でき、自動で日誌が作成できるシステム「道路パトロイド」
パシフィックコンサルタンツ (株)・(株)環境総合テクノス	三次元堤防診断システム GIMS-K	高精度GPSシステムと空洞調査をコンバインドした新しい堤防下探査診断システム
(株)パスコ	MMSデータ活用 現場調査支援システム	MMSで取得した全周囲画像をタブレットPCに格納した現地調査ツール
	赤外線計測システム Real Thermo	高画質赤外線サーモグラフィカメラで見えないものを可視化します。
	次世代道路計測システム Real-3	次世代道路計測システム Real-3舗装の点検評価を効率的に実施し、舗装管理業務を支援します。
	ビッグデータを活用した災害リスク情報サービス	気象、プローブ、災害リスクデータ等のビッグデータを活用したクラウド型の災害リスク情報サービス
	会議室での3次元疑似空間提供システム	3次元空間情報をよりリアルに実現し、災害現場の状況を会議室においても把握できるシステム
	各種メンテナンス維持管理システム	道路ストック点検記録の管理と予防保全対策用システム
(株)復建技術コンサルタント	CIMの取り組み ～新たな建設生産システム～	CIMの導入・運用により建設生産システムの効率化に貢献します。
	タブレットを利用した点検システム	Windowsタブレットを用いた、点検システム（道路ストックの総点検、被災宅地危険度判定）

東北地方整備局 HP より抜粋 (公表名簿順)

平成 27 年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 局長表彰 一覧

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
アジア航測(株) 盛岡支店	岩木山緊急減災砂防計画検討業務	(管理技術者) 荒井 健一	岩手県 盛岡市	青 森 河川国道	土 木 (砂防・地すべり)
(株)庄内測量設計舎	天間林道路付加車線用地調査等業務	(主任担当者) 中村 眞輝	山形県東田 川郡庄内町	青 森 河川国道	補償
(株)建設技術研究所 東北支社	小川原湖塩水対策検討業務	(管理技術者) 鶴田 泰士	仙台市 青葉区	高 瀬 川	土 木 (環境調査)
(株)東京建設コンサルタント 東北支社	津軽ダム周辺整備設計監理業務	(管理技術者) 井上 大介	仙台市 青葉区	津軽ダム	土 木 (ダム)
(株)復建技術コンサルタント 盛岡支店	宮古盛岡横断道路構造物詳細設計業務	(管理技術者) 鎌田 正彦	岩手県 盛岡市	岩 手 河川国道	土 木 (道路)
(株)福山コンサルタント 東北支社	岩手管内道路計画検討業務	(管理技術者) 原田 慎也	仙台市 青葉区	岩 手 河川国道	土 木 (道路)
大日本コンサルタント(株) 東北支社	三陸国道管内道路詳細設計業務	(管理技術者) 松山 一昭	仙台市 青葉区	三陸国道	土 木 (道路)
(株)ウヌマ地域総研	高田地区外用地調査等業務	(主任担当者) 北 嶋 豊	秋田県 秋田市	三陸国道	補償
八千代エンジニアリング(株) 東北支店	宮城県北部地区道路計画調査検討業務	(管理技術者) 島 袋 哲	仙台市 青葉区	仙 台 河川国道	土 木 (道路)
大日本コンサルタント(株) 東北支社	三陸沿岸道路 朝日地区橋梁詳細設計業務	(管理技術者) 平 山 博	仙台市 青葉区	仙 台 河川国道	土 木 (道路)
国際航業(株) 仙台支店	仙台湾南部海岸航空写真測量業務	(主任技術者) 福 島 昇	仙台市 若林区	仙 台 河川国道	測 量
いであ(株) 東北支店	北上川水系河道計画等検討業務	(管理技術者) 半 沢 諭	仙台市 青葉区	北 上 川 下流河川	土 木 (河川)
(株)ニュージェック 東北支店	鳴瀬川総合開発貯水池地すべり検討業務	(管理技術者) 清 水 公二	仙台市 青葉区	鳴 瀬 川 総 開	土 木 (ダム)
いであ(株) 東北支店	雄物川上流河道評価検討業務	(管理技術者) 小 原 一哉	仙台市 青葉区	湯 沢 河川国道	土 木 (河川)
柴田工事調査(株)	二ツ井今泉道路用地調査等業務	(主任担当者) 高 橋 恵一	秋田県 湯沢市	能 代 河川国道	補償
八千代エンジニアリング(株) 東北支店	鳥海ダム地質総合解析業務	(管理技術者) 大 谷 晃	仙台市 青葉区	鳥海ダム	土 木 (ダム)
(株)双葉建設コンサルタント	最上地区道路測量設計業務	(管理技術者) 八 鍬 浩行	山形県 新庄市	山 形 河川国道	土 木 (道路)
三井共同建設コンサルタント(株) 東北支社	赤川河道分析評価等業務	(管理技術者) 黒 澤 祥一	仙台市 青葉区	酒 田 河川国道	土 木 (河川)
(株)地圏総合コンサルタント 仙台支店	安達太良山火山噴火緊急減災対策行動計画検討業務	(管理技術者) 内 柴 良和	仙台市 青葉区	福 島 河川国道	土 木 (砂防・地すべり)
パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社	阿武隈川上流郡山管内構造物設計検討業務	(管理技術者) 宇 治 田 将也	仙台市 青葉区	福 島 河川国道	土 木 (河川)
相馬福島道路(霊山～福島)事業 監理業務 セントラル・大林・ 公共用地補償機構・鴻池設計共 同体	相馬福島道路(霊山～福島)事業監理 業務	(管理技術者) 柳 橋 巧	福島県 福島市	福 島 河川国道	土 木 (道路)
(株)パスコ 福島支店	阿武隈川水系砂防区域平面図作成業務	(主任技術者) 野 口 卓	福島県 福島市	福 島 河川国道	測 量
(株)建設技術研究所 東北支社	郡山国道管内事故対策検討業務	(管理技術者) 寺 奥 淳	仙台市 青葉区	郡山国道	土 木 (道路)
(株)復建技術コンサルタント 福島支店	磐城国道管内橋梁補修設計業務	(管理技術者) 鈴 木 勝浩	福島県 郡山市	磐城国道	土 木 (橋梁)

特 集

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
(株)建設環境研究所 東北支社	胆沢ダム自然環境調査	(管理技術者) 河野 正浩	仙台市 青葉区	北上川 ダム統管	土 木 (環境調査)
陸奥テックコンサルタント(株)	三春ダム流量観測及び定期採水業務	(主任技術者) 今 村 元	福島県 郡山市	三春ダム	測 量
応用地質(株) 東北支社	摺上川ダム水辺現地調査(魚類、空間 利用実態調査)業務	(管理技術者) 丸 谷 成	仙台市 宮城野区	摺上川ダム	土 木 (環境調査)
東北管内樋門等診断分析検討業 務 東北地域づくり協会・建設 環境研究所設計共同体	東北管内樋門等診断分析検討業務	(管理技術者) 大 嶋 武志	仙台市 青葉区	東北技術	土 木 (河川)
(株)ドーコン 東北支店	福島・郡山・磐城地区橋梁点検業務	(管理技術者) 杉野 仁志	仙台市 青葉区	東北技術	土 木 (橋梁)
(株)日本港湾コンサルタント 東北支社	仙台塩釜港区貞山地区岸壁(-9m) 影響調査	(管理技術者) 本 田 善之	仙台市 青葉区	塩釜港湾 ・ 空港	港 湾 (計画等調査)
相馬港浚渫区域底質分布分布検 討業務 いであ(株)・(一社)み なと総合研究財団設計共同体	相馬港浚渫区域底質分布検討業務	(管理技術者) 大 久 保 豊	仙台市 青葉区	小名浜港湾	港 湾 (その他調査)

東北地方整備局 HP より抜粋（公表名簿順）

平成 27 年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 事務所長表彰 一覧

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
(株)建設技術研究所 東北支社	木戸ヶ沢貯水池保全施設グラウチング 解析等業務	(管理技術者) 小 林 裕	仙台市 青葉区	津軽ダム	土 木 (ダム)
八千代エンジニアリング(株) 東北支社	津軽ダム本体細部修正設計業務	(管理技術者) 石 原 広 明	仙台市 青葉区	津軽ダム	土 木 (ダム)
一関遊水地樋門他設計業務 東京コンサルタンツ・菊池技研 コンサルタント設計共同体	一関遊水地樋門他設計業務	(管理技術者) 松 川 秀 敏	東京都 千代田区	岩 手 河 川 国 道	土 木 (河川)
セントラルコンサルタント(株) 東北支社盛岡営業所	上郷遠野地区他構造物詳細設計業務	(管理技術者) 山 口 隆 之	岩手県 盛岡市	岩 手 河 川 国 道	土 木 (道路)
パシフィックコンサルタンツ(株) 盛岡事務所	宮古盛岡地区道路環境調査	(管理技術者) 鬼久保 浩正	岩手県 盛岡市	岩 手 河 川 国 道	土 木 (環境調査)
パシフィックコンサルタンツ(株) 盛岡事務所	三陸沿岸道路管理設備設計業務	(管理技術者) 齊 藤 二 郎	岩手県 盛岡市	三 陸 国 道	土 木 (道路)
(株)東京建設コンサルタント 東北支社	宮古地区猛禽類調査	(管理技術者) 小 坂 秀 樹	仙台市 青葉区	三 陸 国 道	土 木 (環境調査)
(株)復建技術コンサルタント 盛岡支店	三陸国道管内橋梁補修補強設計業務	(管理技術者) 石 橋 努	岩手県 盛岡市	三 陸 国 道	土 木 (橋梁)
(株)オリエンタルコンサルタンツ 盛岡事務所	豊間根地区橋梁詳細設計業務	(管理技術者) 熊 坂 徹 也	岩手県 盛岡市	三 陸 国 道	土 木 (橋梁)
日本工営(株) 北東北事務所	三陸南地区水文調査	(主任技術者) 高 橋 昌 弘	岩手県 盛岡市	三 陸 国 道	地 質 調 査
日本工営(株) 北東北事務所	吉浜釜石地区猛禽類調査業務	(管理技術者) 志 俵 和 宏	岩手県 盛岡市	南三陸国道	土 木 (環境調査)
セントラルコンサルタント(株) 東北支社盛岡営業所	釜石山田地区外構造物設計業務	(管理技術者) 竹 内 徹	岩手県 盛岡市	南三陸国道	土 木 (道路)
(株)ウヌマ地域総研	名取川中田・関上（上）地区外堤防整 備測量・調査設計業務	(管理技術者) 赤 川 浩 輝	秋田県 秋田市	仙 台 河 川 国 道	土 木 (河川)
(株)東京建設コンサルタント 東北支社	名取川洪水予測システム精度向上検討 業務	(管理技術者) 幸 弘 美	仙台市 青葉区	仙 台 河 川 国 道	土 木 (河川)
パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社	大衡地区道路整備検討業務	(管理技術者) 村 上 康 裕	仙台市 青葉区	仙 台 河 川 国 道	土 木 (道路)
(株)建設環境研究所 東北支社	旧北上川河口部景観検討業務	(管理技術者) 篠 崎 伸	仙台市 青葉区	北 上 川 下 流 河 川	土 木 (景観)
パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社	北上川・鳴瀬川河口部堤防復旧施工監 理業務	(管理技術者) 小 室 篤 示	仙台市 青葉区	北 上 川 下 流 河 川	土 木 (河川)
日本工営(株) 仙台支店	鳴瀬川総合開発環境調査（河川域、生 態系）業務	(管理技術者) 小 島 淳	仙台市 青葉区	鳴 瀬 川 総 開	土 木 (環境調査)
鳴瀬川上流域河川測量 ダイワ技術・復建調査設計設計 共同体	鳴瀬川上流域河川測量	(主任技術者) 堀 切 公 雄	仙台市 宮城野区	鳴 瀬 川 総 開	測 量
八千代エンジニアリング(株) 東北支店	象潟地区道路予備設計業務	(管理技術者) 野 田 英 治	仙台市 青葉区	秋 田 河 川 国 道	土 木 (道路)
(株)ウヌマ地域総研	秋田管内河川横断測量調査	(主任技術者) 石 綿 智 幸	秋田県 秋田市	秋 田 河 川 国 道	測 量
大日本コンサルタント 東北支社	下浜道路外補足設計	(管理技術者) 高 橋 俊 之	仙台市 青葉区	秋 田 河 川 国 道	土 木 (道路)
(株)復建技術コンサルタント 秋田支店	秋田管内橋梁調査設計業務	(管理技術者) 鈴 木 勝 浩	秋田県 秋田市	秋 田 河 川 国 道	土 木 (橋梁)
(株)オリエンタルコンサルタンツ 秋田事務所	湯沢管内交通事故対策業務	(管理技術者) 松 戸 努	秋田県 秋田市	湯 沢 河 川 国 道	土 木 (道路)

特 集

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
三井共同建設コンサルタント(株)東北支社	雄物川上流中村・芦沢地区揚水機詳細設計業務	(管理技術者) 本田 正修	仙台市青葉区	湯 沢 河川国道	土 木 (河川)
(株)ドーコン東北支店	雄勝横堀地区道路計画検討業務	(管理技術者) 皆川 佳之	仙台市青葉区	湯 沢 河川国道	土 木 (道路)
(株)建設環境研究所東北支社	大館小坂地区環境調査業務	(管理技術者) 佐藤 功一	仙台市青葉区	能 代 河川国道	土 木 (環境調査)
応用地質(株)東北支社	森吉山ダム環境基図作成業務	(管理技術者) 丸谷 成	仙台市宮城野区	能 代 河川国道	土 木 (ダム)
セントラルコンサルタント(株)東北支社秋田営業所	管内橋梁床版架替設計業務	(管理技術者) 東川 佳弘	秋田県秋田市	能 代 河川国道	土 木 (橋梁)
(株)協和コンサルタンツ東北支店	北秋田地区付属物設計業務	(管理技術者) 中村 勇二	仙台市青葉区	能 代 河川国道	土 木 (道路)
国際航業(株)秋田営業所	米代川航空レーザ測量業務	(主任技術者) 横尾 泰広	秋田県秋田市	能 代 河川国道	測 量
(株)ウヌマ地域総研	米代川川口地区樋門設計業務	(管理技術者) 赤川 浩輝	秋田県秋田市	能 代 河川国道	土 木 (河川)
(株)ニュージェック東北支店	成瀬ダムグラウチング試験解析業務	(管理技術者) 新家 拓史	仙台市青葉区	成瀬ダム	土 木 (ダム)
応用地質(株)東北支社	成瀬ダムサイト周辺(上流)地質調査	(主任技術者) 仙石 昭栄	仙台市宮城野区	成瀬ダム	地質調査
(株)ダイヤコンサルタント東北支社	鳥海ダムダムサイト左岸上流地質調査	(主任技術者) 新山 雅憲	仙台市青葉区	鳥海ダム	地質調査
(株)建設技術研究所東北支社	鳥海ダム施設計画検討業務	(管理技術者) 小林 裕	仙台市青葉区	鳥海ダム	土 木 (ダム)
みちのく・テクノ設計共同体	H25-26山形管内南部道路工事監督支援業務	(管理技術者) 佐藤 一司	仙台市青葉区	山 形 河川国道	土 木 (その他(発注者支援等))
(株)三和技術コンサルタント	東北中央自動車道(東根～尾花沢)再算定業務	(主任担当者) 齋藤 義喜	山形県村山市	山 形 河川国道	補 償
(株)建設技術研究所山形事務所	最上川上流河川整備計画検討業務	(管理技術者) 外崎 冬樹	山形県山形市	山 形 河川国道	土 木 (河川)
(株)オリエンタルコンサルタンツ山形事務所	酒田管内交通安全施設対策検討業務	(管理技術者) 松戸 努	山形県山形市	酒 田 河川国道	土 木 (道路)
(株)地圏総合コンサルタント仙台支店	遊佐地区地質調査業務	(主任技術者) 中川 清森	仙台市青葉区	酒 田 河川国道	地質調査
パシフィックコンサルタンツ(株)山形事務所	赤川三川地区構造物測量設計業務	(管理技術者) 堀合 孝博	山形県山形市	酒 田 河川国道	土 木 (河川)
大日本コンサルタント東北支社	庄内地区交通安全対策設計業務	(管理技術者) 榎野 広則	仙台市青葉区	酒 田 河川国道	土 木 (道路)
(株)復建技術コンサルタント山形支店	温海地区橋梁調査業務	(管理技術者) 飯土井 剛	山形県山形市	酒 田 河川国道	土 木 (橋梁)
(株)建設技術研究所東北支社	立谷沢川流域ほか砂防施設配置検討業務	(管理技術者) 金野 崇史	仙台市青葉区	新庄河川	土 木 (砂防・地すべり)
(株)地圏総合コンサルタント仙台支店	火山噴火緊急減災砂防計画検討業務	(管理技術者) 鴨志田 毅	仙台市青葉区	新庄河川	土 木 (砂防・地すべり)
(株)福田水文センター	荒川河道整備検討業務	(管理技術者) 林 克恭	北海道札幌市	福 島 河川国道	土 木 (河川)
日本工営(株)福島営業所	荒川地区土砂動態調査業務	(管理技術者) 藤元 亮	福島県福島市	福 島 河川国道	土 木 (砂防・地すべり)
八千代エンジニアリング(株)東北支店	福島地区自転車利用環境整備検討業務	(管理技術者) 別府 知哉	仙台市青葉区	福 島 河川国道	土 木 (道路)

請負業者名	業 務 名	技術者氏名	企業所在地	所管事務所	業務区分
(株)建設環境研究所 東北支社	阿武隈川上流環境モニタリング調査業務	(管理技術者) 長本 大介	仙台市 青葉区	福 島 河川国道	土 木 (環境調査)
(株)協和コンサルタンツ 福島営業所	伏黒地区道路詳細設計業務	(管理技術者) 中村 勇二	福島県 郡山市	福 島 河川国道	土 木 (道路)
(株)復建技術コンサルタント 福島支店	県南地区道路設計業務	(管理技術者) 松本 稔	福島県 郡山市	郡山国道	土 木 (道路)
(株)エイト日本技術開発 東北支社	鏡石拡幅事業認定図書作成業務	(主任担当者) 阿部 豊一郎	仙台市 若林区	郡山国道	補 償
陸奥テックコンサルタント(株)	下郷地区測量業務	(主任技術者) 増子 利勝	福島県 郡山市	郡山国道	測 量
(株)東コンサルタント	磐城国道管内交通量調査業務	(主任技術者) 渡辺 正広	福島県 いわき市	磐城国道	測 量
(株)オリエンタルコンサルタンツ 福島事務所	磐城管内交通事故対策検討業務	(管理技術者) 松戸 努	福島県 郡山市	磐城国道	土 木 (道路)
(株)庄内測量設計舎	四倉細谷前交差点改良用地調査等業務	(主任担当者) 中村 眞輝	山形県 庄内町	磐城国道	補 償
(株)福山コンサルタント 東北支社	勿来地区道路予備修正設計業務	(管理技術者) 山本 聡樹	仙台市 青葉区	磐城国道	土 木 (道路)
セントラルコンサルタント(株) 東北支社福島営業所	羽黒平地区道路設計業務	(管理技術者) 佐藤 拓弥	福島県 福島市	磐城国道	土 木 (道路)
(株)建設技術研究所 東北支社	北好間地区道路詳細設計業務	(管理技術者) 黒澤 保	仙台市 青葉区	磐城国道	土 木 (道路)
応用地質(株) 東北支社	田瀬ダム・湯田ダム・胆沢ダム水辺現地調査(鳥類他)業務	(管理技術者) 播磨 さおり	仙台市 宮城野区	北上川 ダム統管	土 木 (環境調査)
田瀬ダム水質検討業務 建設環境研究所・水源地環境センター設計共同体	田瀬ダム水質検討業務	(管理技術者) 佐藤 隆善	東京都 豊島区	北上川 ダム統管	土 木 (ダム)
(株)ニュージェック	田瀬ダム・湯田ダム総合点検業務	(管理技術者) 葛西 良実	仙台市 青葉区	北上川 ダム統管	土 木 (ダム)
いであ(株) 東北支店	最上川ダム統管放流操作検討業務	(管理技術者) 菊谷 英彦	仙台市 青葉区	最上川 ダム統管	土 木 (ダム)
浅瀬石川ダム水質保全対策検討業務 建設環境研究所・パスク設計共同体	浅瀬石川ダム水質保全対策検討業務	(管理技術者) 佐藤 隆善	東京都 豊島区	浅瀬石川 ダム	土 木 (環境調査)
(株)建設技術研究所 東北支社	鳴子ダム耐震性能照査業務	(管理技術者) 丹羽 尚人	仙台市 青葉区	鳴子ダム	土 木 (ダム)
国際航業(株) 仙台支店	釜房ダム貯水池堆砂測量等業務	(主任技術者) 松田 健也	仙台市 若林区	釜房ダム	測 量
日本工営(株) 仙台支店	七ヶ宿ダム管理用発電施設設計業務	(管理技術者) 今田 晃	仙台市 青葉区	七ヶ宿ダム	土 木 (ダム)
八千代エンジニアリング(株) 東北支店	4径間連続PC箱桁橋設計検討業務	(管理技術者) 堀内 深	仙台市 青葉区	東北技術	土 木 (橋梁)
堤防地震被災要因分析検討業務 国土技術研究センター・応用地質設計共同体	堤防地震被災要因分析検討業務	(管理技術者) 佐古 俊介	東京都 港区	東北技術	土 木 (河川)
(株)復建技術コンサルタント	岩手・三陸地区橋梁点検業務	(管理技術者) 小松 昭彦	仙台市 青葉区	東北技術	土 木 (橋梁)
(株)パスコ 仙台支店	堤防変状計測技術検討業務	(主任技術者) 近 政英	仙台市 若林区	東北技術	測 量
パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社	青森港油川地区防波堤(第一北)IV区調整函細部設計	(管理技術者) 瀬良 敬二	仙台市 青葉区	青森港湾	港 湾 (設計)
(株)ダイヤコンサルタント 東北支社	宮古港土質調査	(管理技術者) 佐藤 春夫	仙台市 青葉区	釜石港湾	港 湾 (一般調査)
パシフィックコンサルタンツ(株) 秋田事務所	秋田港外港地区防波堤(南)(改良)安定性照査業務	(管理技術者) 山口 達治	秋田県 秋田市	秋田港湾	港 湾 (設計)

[支部だより]

4月14日(火)

平成 26 年度会計監査
場 所／支部会議室

4月14日(火)

第 1 回役員会
場 所／支部会議室
議 題／(1)平成 27 年度支部定時総会について
(2)各委員会からの報告事項
(3)その他

4月24日(金)

役員会
場 所／パレス宮城野
議 題／(1)平成 27 年度支部定時総会について
(2)その他

4月24日(金)

定時総会講演会
場 所／パレス宮城野
講 演：「公共事業を巡る最近の話題」
東北地方整備局 局長 縄田 正 氏
参加者 108 名

4月24日(金)

平成 27 年度支部定時総会
場 所／パレス宮城野
議 題／(1)平成 26 年度事業報告について
(2)平成 27 年度事業計画について
(3)平成 27 年度収支予算書について
(4)平成 26 年度決算報告について
(5)支部役員の改選について
そ の 他
100 社中 75 社出席

4月24日(金)

対外活動委員会
場 所／支部会議室
議 題／(1)各県・整備局との意見交換会総括
(2)仙台市との勉強会報告
(3)秋田県との災害協定締結について

4月25日(土)

緑化功労者の表彰
緑化功労者表彰式典が仙台市勾当台公園市民広場において開催されました。
(一社)建設コンサルタンツ協会は緑化功労者として表彰され、表彰式には本部前川副会長が出席しました。

5月14日(木)

第 1 回情報部会
場 所／支部会議室
議 題／(1)今年度の各 WG 活動計画
(2)各種講習会の開催計画
(3)「ガイド東北」のその後

5月15日(金)

広報委員会
場 所／支部会議室
議 題／(1)平成 27 年度 講演会 (講演者等選定)
(2)JCCA TOHOKU Vol.52 役割分担について
(3)その他

5月21日(木)

地域コンサルタント委員会
場 所／事務局会議室
議 題／(1)平成 26 年度 アンケート結果
(2)その他

5月22日(金)

第 2 回役員会
場 所／支部会議室
議 題／(1)本部・整備局意見交換会について
(2)各部会・委員会からの提案、連絡事項について
(3)その他

5月25日(月)

宮城県平成 27 年度技術研修会「コンクリート構造物の基礎」へ講師派遣
講 師／石井 一人 (パシフィック C(株))

5月29日(金)

第 1 回総務部会
場 所／支部会議室
議 題／(1)平成 27 年度の総務部会事業計画について
(2)その他

6月1日(月)～2日(火)

青森県建設技術センター平成27年度「土質研修会」へ講師派遣

講師／畠山 正則 (応用地質株)
今村 隆弘 (株復建技術C)
山口 淳熙 (大日本C株)
齋藤 淳 (株総合技術C)

6月2日(火)～5日(金)

道路メンテナンス講習会

(6/2～4 専門講義 6/5 現場実習)

主催 本部・全国建設研修センター
東北支部 技術部会 (現場実習 担当)

6月3日(水)～4日(木)

EE 東北'15

場所／夢メッセみやぎ

当支部も構成団体として参画しております。

6月9日(火)

第1回技術部会

場所／パレス宮城野

議題／(1)技術部会総会の進行の確認
(2)技術部会の動向・今後の予定
(3)その他

6月9日(火)

技術部会総会

場所／パレス宮城野

議題／(1)平成26年度技術部会事業報告、
(2)各専門委員会活動報告
(3)平成27年度技術部会事業計画(案)及び
予算
(4)その他

6月17日(水)

対外活動委員会

場所／支部会議室

議題／(1)今年度の実施体制について
(2)平成27年度の活動内容とスケジュール案
について
(3)その他

6月25日(木)

第3回役員会

場所／支部会議室

議題／(1)平成27年度本部・整備局意見交換会につ
いて
(2)各委員会からの連絡事項
(3)その他

7月1日(水)

技術部会(地盤専門委員会)

場所／支部会議室

7月2日(木)

東北地方整備局「道路構造物技術セミナー」へ講師派遣

講師／石井 一人 (パシフィックC株)

7月7日(火)

本部・整備局意見交換会

東北地方整備局 縄田局長 他16名

本部 長谷川会長 他13名

支部 遠藤支部長 他8名

議題

1. 平成27年度建設コンサルタントの要望と提案
2. 意見交換

7月13日(月)

東北地方整備局「構造物基礎技術講習会(擁壁編)」へ講師派遣

講師／荒関 正二 (株オリエンタルC)
石橋 努 (株復建技術C)

7月14日(火)

対外活動委員会

場所／支部会議室

議題／(1)平成27年度各県との意見交換会の議題
(案)について
(2)平成27年度意見交換会日程について
(3)その他

7月15日(水)

第2回情報部会

場所／事務局会議室

議題／(1)今年度の各WG活動計画について
(2)「ガイド東北」のその後
(3)その他

支部だより

7月16日(木)～17日(金)

CIM講習会

場 所／アーク仙台ビル

主 催 本部 情報部会 ICT 委員会 CIM 技術専門委員会
東北支部 情報部会 受講者 両日 20 名

7月16日(木)

平成 27 年度東北地方整備局国土交通行政関係功労者表彰式

東北地方整備局では国土交通行政関係功労者に対して表彰式を行っています。

本年度は優良業務施行会社、災害対策功労者として、次の会員の方々が受賞されました。

誠におめでとうございます。

【優良業務施行会社】

アジア航測(株) 盛岡支店

岩木山緊急減災砂防計画検討業務

(株)庄内測量設計舎

天間林道路付加車線用地調査業務

(株)建設技術研究所 東北支社

小川原湖塩水対策検討業務

応用地質(株) 東北支社

郡山国道管内事故対策検討業務

(株)東京建設コンサルタント 東北支社

津軽ダム周辺整備設計監理業務

(株)復建技術コンサルタント 盛岡支店

宮古盛岡横断道路構造物詳細設計業務

(株)福山コンサルタント 東北支社

岩手管内道路計画検討業務

大日本コンサルタント(株) 東北支社

三陸国道管内道路詳細設計業務

三陸沿岸道路朝日地区橋梁詳細設計業務

(株)ウヌマ地域総研

高田地区外用地調査等業務

八千代エンジニアリング(株) 東北支店

宮城県北部地区道路計画調査検討業務

鳥海ダム地質総合解析業務

国際航業(株) 仙台支店

仙台湾何部海岸航空写真測量業務

いであ(株) 東北支店

北上川水系河道計画等検討業務

雄物川上流稼働評価毛農業務

(株)ニュージェック 東北支店

鳴瀬川総合開発貯水池地すべり検討業務

柴田工事調査(株)

二ツ井今泉道路用地調査等業務

(株)双葉建設コンサルタント

最上地区道路測量設計業務

三井共同建設コンサルタント(株) 東北支社

赤川河道分析評価等業務

(株)地圏総合コンサルタント 仙台支店

安達太良山火山噴火緊急減災対策行動計画検討業務

パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社

阿武隈川上流郡山管内構造物設計検討業務

セントラルコンサルタント(株) 東北支社

相馬福島道路(霊山～福島)事業監理業務

(株)パスコ 福島支店

阿武隈川水系砂防区域平面図作成業務

(株)復建技術コンサルタント 福島支店

磐城国道管内橋梁補修設計業務

(株)建設環境研究所 東北支社

胆沢ダム自然環境調査

陸奥テックコンサルタント(株)

三春ダム流量観測及び定期採水業務

応用地質(株) 東北支社

摺上川ダム水辺現地調査(魚類、空間利用実態調査)業務

(株)建設環境研究所 東北支社

東北管内樋門等診断分析検討業務

(株)ドーコン 東北支店

福島・郡山・磐城地区橋梁点検業務

(株)日本港湾コンサルタント 東北支社

仙台塩釜港塩釜港区貞山地区岸壁(-9m)影響調査
いであ(株) 東北支店

相馬港浚渫区域底質分布検討業務

7月22日(水)

第4回役員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)平成 27 年度意見交換会について

(2)各部会・委員会からの提案議題・連絡事項

(3)その他

7月23日(木)

「マネジメントセミナー」

場 所／ホテル法華クラブ仙台

主 催 本部

受講者 115 名

7月27日(月)

第2回広報委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)広報資料編集について

(2)その他

7月30日(木)

東北地方整備局「土工基礎技術講習会」へ講師派遣
講師／今村 隆広 (株)復建技術C)
細谷 健介 (新和設計株)

8月4日(火)

技術部会 (道路専門委員会)
場 所／支部会議室

8月5日(水)

技術部会 (地盤専門委員会)
場 所／支部会議室

8月6日(木)・7日(金)

GIS講習会
場 所／アーク仙台ビル 会議室
主 催 本部 情報部会 ICT 委員会
ICT 普及専門委員会
支部 情報部会 受講者 両日 20名

8月11日(火)

地域コンサルタント委員会
場 所／事務局会議室
議 題／(1)本部「地域コン弘前開催の議案」について
(2)「担い手確保の調査」について
(3)その他

8月21日(金)

契約のあり方講習会
場 所／パレス宮城野
主 催 本部 契約のあり方専門委員会
支部 事務局 受講者 64名

8月22日(土)

親睦バーベキュー
場 所／秋保森林スポーツ公園
ニッカウキスキー仙台工場見学
参加者 40名

8月24日(月)

経営者委員会 (社長会)
場 所／KKR ホテル仙台
議 題／(1)本部・支部意見交換会について
(2)本部地域コンサルタント委員会の報告
(3)その他

9月1日(火)

災害時対応演習 [11:00～15:00]
11:00 中国地方(震源地 安芸灘)においてマグニチュード8.0の大規模地震が発生し、東北支部に災害対策支部を設置したとの想定で災害対策支部員を招集、会員の被災状況を把握するため、予め決めていた連絡会員会社15社へ携帯電話により被害状況照会、会員より被害状況をFAXにより受信。
また、被災現地への派遣のため、予め決めていた災害現地調査派遣会員9社と協議・派遣等の訓練を実施した。

9月8日(火)

技術部会 (地盤専門委員会)
場 所／支部会議室

9月9日(水)

対外活動委員会
場 所／支部会議室
議 題／(1)平成27年度意見交換会議題(案)について
(2)意見交換会日程確認
(3)その他

9月14日(月)

第3回広報委員会
場 所／支部会議室
議 題／(1)JCCA TOHOKUの校正について
(2)その他

9月15日(火)

技術部会 (道路・構造専門委員会)
場 所／支部会議室

9月17日(木)

岩手県土木技術専門研修「土木構造物実習、道路計画」へ講師派遣
講 師／岡田 篤 (大日本C株)
木村 重喜 (株)オリエンタルC)

9月18日(金)

岩手県土木技術専門研修「土木構造物実習、河川計画」へ講師派遣
講 師／堀合 孝博 (パシフィックC株)
開米 浩久 (株)復建技術C)

9月25日(金)

本部・地域コンサルタント委員会弘前で開催

9月30日(水)

第5回役員会

場 所／支部会議室

議 題／(1)平成27年度各県との意見交換会について
(2)各分会・委員会からの提案議題・連絡事項
(3)その他

9月30日(水)

福島県土木部職員研修「構造物補修設計演習」へ講師派遣

講 師／石井 一人 (パシフィックC(株))

[会員の動向]

◆ 新入会員の紹介

平成27年6月1日入会 (株)昭和土木設計
代表取締役 村上 功
〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南四丁目1-23
TEL 019-638-6834 FAX 019-638-6389

◆ 会員の異動（次の方が就任されました）

平成27年4月1日	(株)応用地質(株) 東北支社 支社長 長瀬 雅美	平成27年6月8日	(株)高島テクノロジーセンター 東北支店 支店長 本橋 雅登
平成27年4月1日	(株)建設技術センター 仙台営業所 所 長 山口 徹也	平成27年6月19日	(株)東北開発コンサルタント 取締役社長 田中 雅順
平成27年4月1日	(株)ニュージェック 東北支店 支店長 野村 稔彦	平成27年7月22日	(株)国際開発コンサルタント 仙台支店 支店長 佐々木 勝彦
平成27年5月25日	サンコーコンサルタント(株) 東北支店 支店長 大曾根 正一	平成27年7月24日	復建調査設計(株) 東北支店 支店長 宮川 一始
	富士コンサルタント(株) 仙台支店 支店長 佐々木 光春	平成27年8月28日	(株)東コンサルタント 代表取締役社長 佐藤 敏倫
平成27年6月1日	(株)ドーコン 東北支店 支店長 重清 浩司	平成27年9月1日	(株)郡山測量設計社 代表取締役社長 野中 春夫

◆ 住所変更

平成27年6月29日 (株)大東設計コンサルタント 仙台支店
〒980-6010 仙台市青葉区中央4-6-1 (住友生命仙台中央ビル)
TEL 022-724-7530 (変 更) FAX 022-724-7540 (変 更)

一般社団法人
建設コンサルタンツ協会 東北支部



平成27年度 講演会

平成27年11月13日(金) 13:30~17:00

テーマ 「東北の火山防災・減災を考える」



講師
鈴木 智恵 氏
気象予報士・防災士

「気象キャスターから見た
自然災害への備え」
～災害情報のミカタ～

講演時間【13:50～14:45】



講師
加藤 勝彦 氏
蔵王町 環境政策課
ジオパーク推進室長

「動く大地と共に生きる」
～蔵王ジオパーク構想の
推進と防災について～

講演時間【14:55～15:50】



講師
伴 雅雄 氏
山形大学 理学部
地球環境学科 教授

「蔵王山」

講演時間【16:00～16:55】

会場 ホテル法華クラブ仙台 1階 ハーモニーホール

参加対象者 一般者及び企業の皆様、学校関係者（学生を含む）、
官公庁の皆様、建設コンサルタンツ協会会員

参加費 無料
講演会終了後、意見交換会を開催します。
(参加料お一人様3,000円〈先着50名〉 2階 ピア 17:20～18:50)

定員 200名(先着順)

申込方法 添付の申込書により、FAX、またはEメールでお申し込みください。

申込締切日 平成27年10月30日(金)

申込問合せ先 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部 (担当:新野、小川)
(本講演会は、一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 CPD プログラムとして認定されています)

会場案内

ホテル
法華クラブ仙台
〒980-0014
宮城県仙台市青葉区本町2-11-30
仙台駅西口から徒歩約8分
地下鉄勾当台公園から徒歩約5分



主催／一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部
後援／国土交通省東北地方整備局
河北新報社、日刊建設工業新聞社、
日刊建設産業新聞社、日刊建設通信新聞社、建設新聞社
協賛／公益社団法人 土木学会東北支部
公益社団法人 日本技術士会東北本部

(順不同)

お問合せ
・申込先

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部

Tel.022-263-6820 Fax.022-222-4574 E-mail:thinfo@th.jcca.or.jp

一般社団法人 建設コンサルタント協会 東北支部 会員名簿

会員 10月1日現在 101社

会社名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺3-13-10	022-295-5768
朝日航洋(株)	東北空情支社	〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1	022-771-2382
アジア航測(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28	022-216-3553
(株)アスコ	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-30	022-257-0091
(株)東コンサルタント	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101	0246-23-8424
(株)アーバン設計	本社	〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26	024-961-7500
いであ(株)	東北支店	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-1-11	022-263-6744
(株)ウエスコ	東北支店	〒981-3107 仙台市泉区本田町13-31	022-776-3151
(株)ウヌマ地域総研	本社	〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19	018-863-5809
エイト技術(株)	本社	〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10	0178-47-2121
(株)エイト日本技術開発	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-712-3555
応用地質(株)	東北支社	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2	022-237-0471
(株)オオバ	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-4	022-261-8861
(株)オリエンタルコンサルタント	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1	022-215-5522
開発虎ノ門コンサルタント(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-292-5220
(株)片平エンジニアリング	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3130
川崎地質(株)	北日本支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16	022-792-6330
(株)菊池技研コンサルタント	本社	〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8	0192-27-0835
基礎地盤コンサルタント(株)	東北支社	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23	022-291-4191
(株)キタコン	本社	〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1	0172-34-1758
(株)キタック	仙台事務所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37	022-265-1051
(株)橋梁コンサルタント	東北事務所	〒960-8043 福島県福島市中町4-20	024-524-2381
(株)協和コンサルタント	東北支店	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14	022-266-6073
(株)近代設計	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-217-6750
(株)クレアリア	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町9-7	022-726-5225
(株)建設環境研究所	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-265-0666
(株)建設技術研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-15-1	022-261-6861
(株)建設技術センター	仙台営業所	〒982-0262 仙台市青葉区西花苑2-15-23	022-302-1195
(株)興起測量設計事務所	本社	〒996-0902 福島県喜多方市松山町松字小荒井道西405-10	0241-24-2701
(株)構研エンジニアリング	東北営業所	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203	022-344-6231
(株)郡山測量設計社	本社	〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3	024-952-5200
(株)国際開発コンサルタント	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区一番町1-5-25	022-225-6201
国際航業(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45	022-299-2801
(株)コサカ技研	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-3444
(株)コンテック東日本	本社	〒030-0122 青森県青森市大字野尻今田91-3	017-738-9346
(株)三協技術	本社	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14	022-224-5503
三協コンサルタント(株)	本社	〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1	023-655-5000
サンコーコンサルタント(株)	東北支店	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-38	022-273-4448
(株)三和技術コンサルタント	本社	〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21	0237-55-3535
柴田工事調査(株)	本社	〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1	0183-73-7171
(株)庄内測量設計舎	本社	〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9	0234-43-2459
昭和(株)	東北支社	〒980-0022 仙台市青葉区本町2-1-1	022-261-9052
(株)昭和土木設計	本社	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4-1-23	019-638-6834
新日本技研(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-212-4870
新和設計(株)	本社	〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880	0238-22-1170
ジェイアール東日本コンサルタント(株)	東北支店	〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2	022-211-0872
(株)ジャパックス	東北支店	〒983-0851 仙台市宮城野区榴岡25	022-352-1336
セントラルコンサルタント(株)	東北支社	〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21	022-264-1923
(株)創研コンサルタント	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22	018-863-7121
(株)総合技術コンサルタント	東北支店	〒980-0804 仙台市青葉区大町1-3-2	022-268-4191

会社名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
創和技術(株)	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7	018-863-4545
(株)高島テクノロジーセンター	東北支店	〒980-6117 仙台市青葉区中央1-3-1	022-721-5401
(株)田村測量設計事務所	本社	〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3	023-642-6644
第一復建(株)	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3701
(株)大東設計コンサルタント	仙台支店	〒980-6010 仙台市青葉区中央4-6-1	022-724-7530
大日コンサルタント(株)	仙台事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-225-5626
大日本コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35	022-261-0404
(株)ダイヤコンサルタント	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-4-1	022-263-5121
大和工営(株)	本社	〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43	0233-22-2422
(株)地圏総合コンサルタント	仙台支店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町1-2-1	022-261-6466
中央開発(株)	東北支店	〒984-0037 仙台市若林区蒲町字東50-2	022-766-9121
(株)中央技術コンサルタント	東北支店	〒981-3131 仙台市泉区中央2-16-12	022-375-6787
中央コンサルタント(株)	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-18-21	022-722-2545
中央復建コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-267-1459
中電技術コンサルタント(株)	東北営業所	〒981-0014 仙台市青葉区本町1-13-22	022-397-8173
中部復建(株)	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-5-18	022-274-8190
(株)長大	仙台支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-781-8628
(株)千代田コンサルタント	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-3-8	022-214-6261
(株)帝国コンサルタント	仙台支店	〒989-3128 仙台市青葉区愛子中央5-2-15	022-391-0870
(株)テクノ長谷	本社	〒980-0824 仙台市青葉区支倉2-10	022-222-6457
(株)東京建設コンサルタント	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-222-8887
東京コンサルタント(株)	東北支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20	022-265-3891
(株)東建工営	本社	〒981-1227 名取市杜せきのした1-2-7	022-383-9811
(株)トーチコンサルタント	東北事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-262-0243
(株)ドコン	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-225-2860
東邦技術(株)	本社	〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13	0187-62-3511
(株)東北開発コンサルタント	本社	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33	022-225-5661
(株)東北構造社	本社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-227-1877
日栄地質測量設計(株)	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2	0246-21-3111
(株)日水コン	東北支所	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-7-17	022-222-1101
日本工営(株)	仙台支店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11	022-227-3525
(株)日本構造橋梁研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-1-7	022-713-6657
(株)日本港湾コンサルタント	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5	022-215-9051
日本シビックコンサルタント(株)	東北事務所	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11	022-263-3605
日本振興(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10	022-291-3810
(株)ニュージェック	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-301-7611
(株)ネクスコ・エンジニアリング東北	本社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-65	022-713-7277
パシフィックコンサルタント(株)	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1	022-302-3940
(株)パスコ	東北事業部	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡2-2-11	022-299-9511
(株)吹上技術コンサルタント	東北事務所	〒980-0022 仙台市青葉区五橋2-11-1	022-722-1235
(株)福田水文センター	東北営業所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-6-10	022-224-1417
(株)福山コンサルタント	東北支社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17	022-262-0118
富士コンサルタント(株)	仙台支店	〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20	022-395-6216
(株)双葉建設コンサルタント	本社	〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399番11	0233-22-0891
(株)復建エンジニアリング	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-3-10	022-267-2765
(株)復建技術コンサルタント	本社	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25	022-262-1234
復建調査設計(株)	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-723-5830
三井共同建設コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-225-0489
陸奥テックコンサルタント(株)	本社	〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18	024-922-2229
八千代エンジニアリング(株)	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23	022-261-8344
(株)横浜コンサルティングセンター	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-18	022-262-1493

編集後記

今年の夏は連日猛暑日が続き、東京では連続猛暑日の新記録を更新しました。仙台で、ひと夏に3回も猛暑日を記録するのは25年ぶりのことでした。戦後70年、全国高等学校野球大会は開催から100年の大きな節目を迎え、東北各県の代表校は連日、熱戦を繰り広げました。宮城県代表は準優勝の成績を収めました。白球を追う球児の姿に大きな感動を憶えた夏となりました。

9月に入り10日の夜から11日の朝にかけて、台風18号から変わった低気圧により各県で非常に激しい大雨となり甚大な被害が発生しました。

この度、被災されました皆様へ心よりお見舞いを申し上げます。

茨城県の鬼怒川、宮城県の渋井川の堤防決壊。宮城県にも「大雨特別警報」が発表され観測史上最大となる降雨が記録されました。河川の決壊・氾濫、浸水、土砂災害、交通機関や各方面への甚大な被害を残した自然災害となってしまいました。

来年は東日本大震災から5年を迎えます。さまざまな自然災害から身を守りこれまで以上に、郷土の復旧・復興が力強く進む事を願います。

さて、11月13日には東北支部主催の講演会「東北の火山防災・減災を考える」をメインテーマに山形大学理学部地球環境学科教授の判雅雄氏、蔵王町環境政策課ジオパーク推進室長の加藤勝彦氏、気象予報士・防災士の鈴木智恵氏を講師にお招きし開催する予定です。日本列島を取り巻く自然災害は止むことがありません。過去の災害を風化させること無く、経験・教訓を活かして防災を学び減災に努めたいと思います。全国的にも火山が活発に活動しております。東北地方の火山と防災について講師の先生から多くを学び今後活かして行きたいと思えます。皆様方の多数のご来場を心よりお待ちしております。

最後になりますが、お忙しい中、本誌に寄稿頂きました皆様方に御礼を申し上げます。

(2015年9月 目々澤 英幸 記)

JCCA TOHOKU Vol.52

発行	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11 アーク仙台ビル TEL 022-263-6820
編集	広報委員長 松川 秀敏 副委員長 菊池 透 副委員長 石塚 三雄 広報委員 大友 正樹 広報委員 荒木 孝広 〃 田子 洋一 〃 佐藤 雅樹 〃 高橋 伸彰 〃 高野 浩二 〃 目々澤 英幸 〃 山田 勝 〃 海藤 剛 〃 高橋 力
事務局	新野 俊晴・小川 みゆき
印刷	ハリウ コミュニケーションズ株式会社 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 TEL 022-288-5011



.....明日への風、東北から.....

ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。